

第 1 1 5 回 幹 事 会

平成 2 3 年 1 月 2 7 日

日 本 学 術 会 議

第115回幹事会（平成23年1月27日（木））13:30～

議事次第

（公開審議）

Ⅰ 前回議事要旨確認

Ⅱ 諸報告

Ⅲ 審議事項

- | | |
|-----------|--|
| 1 委員会関係 | 提案1 選考委員会における分科会委員の決定
提案2 国際委員会における分科会の委員の決定
提案3 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会における分科会委員の決定
提案4 科学・技術を担う将来世代の育成方策検討委員会の委員の決定
提案5 研究にかかわる『評価システム』の在り方検討委員会の委員の決定 |
| 2 選考関係 | 提案6 補欠の会員の候補者を推薦する部の決定 |
| 3 団体等の指定 | 提案7 日本学術会議協力学術研究団体の指定
提案8 学術刊行物の指定 |
| 4 国際会議関係 | 提案9 第21回国際科学会議科学計画評価委員会（21th Meeting of the ICSU Committee on Scientific Planning and Review (CSPR)）及び国際科学会議Foresight Workshop出席に係る会員の派遣
提案10 第1回Conference for Young Scientists & GYA総会への会員の派遣 |
| 5 シンポジウム等 | 提案 11-27 （シンポジウム等17件） |
| 6 後援 | 提案28 国内会議 |
| 7 その他 | 事務局より報告
・平成23年度予算案について
・事務局から送信されるメールについて（メールの添付ファイルの自動暗号化機能の導入について）
・諮問第11号「科学技術に関する基本政策について」に対する答申（抜粋）について |

Ⅳ その他

今後の予定
次回は2月24日(木)13時30分から開催

(非公開審議)

Ⅴ 非公開審議事項

- 1 委員会関係
 - 提案29 分野別委員会における分科会等の委員（特任連携会員等）の決定等
 - 提案30 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会における分科会委員（特任連携会員）の決定
- 2 その他
 - 提案31 臨時総会の開催について
 - 4月の総会日程（案）について
 - 会員候補者の各部選出人数について
 - 事務局より報告
 - 委員手当の執行状況について

資料2

第115回幹事会（1月27日）出席者一覧

会長	金澤 一郎
副会長	大垣 眞一郎
副会長	鈴木 興太郎
副会長	唐木 英明

第一部 部長	広渡 清吾
第一部 副部長	小林 良彰
第一部 幹事	木村 茂光
第一部 幹事	山本 眞鳥

第二部 部長	浅島 誠
第二部 副部長	北島 政樹
第二部 幹事	山本 正幸
第二部 幹事	鷺谷 いづみ

第三部 部長	岩澤 康裕
第三部 副部長	後藤 俊夫
第三部 幹事	池田 駿介

事務局長 齋藤 敦

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
2 審議付託等	2
3 委員会委員の辞任	2
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	3
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	3
3 機能別委員会の開催とその議題	3
4 分野別委員会の開催とその議題	5
5 課題別委員会の開催とその議題	13
6 サイエンスカフェの開催	15
7 総合科学技術会議報告	16
8 慶弔	17

第 1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
12 月 9 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長
12 月 10 日 (金)	総合科学技術会議本会議	金澤会長
12 月 14 日 (木)	成長戦略・経済対策 PT 科学・技術・イノベーション小委員会 文部科学部門会議 科学技術政策 WT 日本学術会議 意見交換会	金澤会長、大垣副会長、鈴木副会長、唐木副会長、浅島第二部部長、岩澤第三部部長
12 月 16 日 (木)～17 日 (金)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2010 (金沢)	金澤会長、大垣副会長、鈴木副会長、唐木副会長、綱木次長
12 月 18 日 (土)	国際生物多様性年クロージング・イベント (金沢)	大垣副会長
12 月 21 日 (火)	総合科学技術会議と韓国国家科学技術委員会との政策談話	金澤会長
12 月 20 日 (月)～29 日 (水)	ネパール科学技術アカデミー、バングラデシュ科学アカデミー等打ち合わせ会議、第 5 回国際会議 (食料、健康、及び環境の微生物学) (カトマンズ・ネパール、ダッカ・バングラデシュ)	唐木副会長、綱木次長
1 月 6 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長
1 月 7 日 (金)	公開シンポジウム『健康・生活価値』の探求ー健康・生活科学委員会からの学術・教育への緊急提言』(日本学術会議講堂) ※開会挨拶	金澤会長
1 月 11 日 (火)	デュアル・ユース問題専門家チームとの会合	金澤会長、浅島第二部部長、永宮第三部幹事
1 月 13 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長
1 月 20 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長
1 月 21 日 (金)	公開シンポジウム「バイオ医薬品の新たな潮流」(日本学術会議講堂) ※開会挨拶	金澤会長
1 月 21 日 (金)	科学技術・学術審議会総会	金澤会長
1 月 25 日 (火)	シンポジウム「放射線作業者の被ばくの一元管理」 ※開会挨拶	唐木副会長

2 審議付託等

件 名	申 請 者	審議付託先
日本伝熱学会創立50周年記念第48回日本伝熱シンポジウム	社団法人日本伝熱学会会長	第三部
地質調査総合センター第17回シンポジウム「地質地盤情報の法整備を目指して」	独立行政法人産業技術総合研究所理事長	第三部
シンポジウム「アジアンスタディ岡山'11」	岡山大学ナノバイオ標的医療イノベーションセンターセンター長	第二部
日本学術会議協力学術研究団体の指定	日本ウォータージェット学会他	科学者委員会

3 委員会委員の辞任

- 労働雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会 宮本 太郎、井谷 徹
(平成22年12月10日付)
- 基礎生物学委員会・農学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 I UMS 分科会 八木澤 守正(平成22年12月27日付)

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

- (1) **第三部拡大役員会**（第29回）（12月10日）
 - ①理学・工学系科学・夢ロードマップについて（報告）
 - ②日本学術会議の機能強化について
 - ③第三部主催公開シンポジウムについて
 - ④平成23年度第三部夏季部会について ⑤その他
- (2) **第三部拡大役員会**（第30回）（1月5日）
 - ①化学系分科会から提出の「報告」について
 - ②第三部主催の公開シンポジウムについて ③その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

- (1) **若手アカデミー委員会**（第6回）
 - 若手アカデミー活動検討分科会**（第4回）合同会議（12月9日）
 - ① 委員会委員・分科会委員の紹介
 - ② 「若手アカデミー設置の提案」（案）について
 - ③ 23年度予算要求並びに今後のスケジュール等について
 - ④ その他
- (2) **若手アカデミー委員会 若手アカデミー活動検討分科会**（第5回）（12月17日）
 - ①経過報告 ②提言テーマとりまとめ報告および審議
 - ③今後の活動についての審議
 - ・ToDo リスト
 - ・グループ編成
 - ・活動方針
 - ④その他

3 機能別委員会の開催とその議題

- (1) **科学と社会委員会**（第13回）（12月13日）
 - ①活字文化プロジェクトとの共催企画について
 - ②査読委員の指定について ③勧告等のフォローアップについて ④その他
- (2) **科学者委員会広報分科会**（第14回）（12月20日）

①『学術の動向』への編集協力について

(3) 科学と社会委員会科学力増進分科会 (第17回) (1月11日)

①今期活動について ②サイエンスカフェについて ③その他

(4) 科学者委員会 (第34回) (1月12日)

①協力学術研究団体の指定について

②学術刊行物の審査協力について

③日本学術会議の機能強化に関する科学者委員会の在り方等について

④日本学術会議主催科学・技術コミュニケーションフォーラムについて

⑤協力学術研究団体に関する規程等の見直しについて

⑥その他

(5) 選考委員会 (第10回) (1月14日)

①平成23年10月の会員及び連携会員の改選に向けて

(6) 科学者委員会学術統計検討分科会 (第5回) (1月17日)

①報告書の構成について ②今後の進め方について ③その他

(7) 国際委員会 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2011 分科会 (第1回) (1月19日)

①分科会について ②会議概要について ③プログラムについて

④今後のスケジュールについて ⑤その他 ⑥次回分科会について

**「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2010
－生物多様性の保全と持続可能な利用－」**

**“International Conference on Science and Technology for Sustainability 2010
-Conservation and Sustainable Use of Biodiversity-”**

結果概要

平成23年1月27日
日本学術会議事務局

1. 日 程 平成22年12月16日(木)～17日(金)

2. 場 所 石川県金沢市(ホテル金沢)

3. 主 催 日本学術会議

4. 参加者 2 日間で一般参加者延べ約 200 人
その外、招待講演者及び分科会委員が参加

5. 概要

日本学術会議が主催する「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2010」が、「国際生物多様性年」のクロージングイベント開催に合わせ、平成 22 年 12 月 16 日（木）、17 日（金）の両日に石川県金沢市（ホテル金沢）で開催され近隣大学関係者や環境問題の専門家の他、地元高校生ら一般参加者を含む延べ約 200 人が参加しました。

第 8 回目となる今回は、「生物多様性の保全と持続可能な利用」に焦点を絞り、会長及び谷本石川県知事（来賓）挨拶の後、Ahmed Djoghlaif 国際連合環境計画生物多様性条約事務局長と Anantha Kumar Duraiappah 国際連合大学地球環境変化の人間社会側面に関する国際研究計画事務局長の基調講演が行われ、その後、3つのセッション（生態系サービスと生物多様性の価値、気候変動と生物多様性、科学的統合手法による生物多様性と土地の持続的な利用）が実施されました。各セッションとも内外の多様な分野の専門家らによる分野横断的な議論が活発に行われ、最後に鷲谷、武内共同議長により論点のとりまとめがなされ、会議は盛況のうちに終了しました。

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

- (1) 史学委員会博物館・美術館等の組織運営に関する分科会（第 6 回）（12 月 9 日）
① 声明（仮）文案の検討 ② その他
- (2) 法学委員会「グローバル化と法」分科会（第 9 回）（12 月 12 日）
① 三上正裕外務省国際法課長による報告
② まとめのシンポジウムについて
③ 今後の審議のあり方について ④ その他
- (3) 心理学・教育学委員会健康・医療と心理学分科会（第 7 回）（12 月 14 日）
① 神経心理士について 日本神経心理学会 乾 敏郎会長（連携会員）
② 医療心理士関係の状況
③ 心理および医療における関係学会の連携について ④ その他
- (4) 地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IHDP 分科会（第 6 回）（12 月 17 日）
① 地域惑星科学連合 2011 年大会 IHDP 国際セッションについて

- ②Global Sustainability Researchに関する国際会議について
- ③大型研究計画について ④日本地理学会シンポジウムの報告
- ⑤関連委員会・小委員会等の動静 ⑥その他

(5) 地域研究委員会人文・経済地理と地域教育分科会 (第8回) (12月20日)

- ①提言・報告案について ②会員・連携会員の改選について
- ③地理教育・学士力について ④その他

(6) 第一部国際協力分科会 (第4回) (12月20日)

- ①AASSREC 第19回大会への準備シンポジウムについて
報告者の確定、公開講演会の申請、宣伝方法等
- ②ISSC の名古屋総会および公開シンポジウムについて
- ③アジア学術会議への新テーマ提案の件
- ④その他

(7) 経営学委員会経営学教育の在り方検討分科会 (第4回) (12月23日)

- ①経営学関連学会協議会第3回シンポジウム「経営学教育の質保証」：奥林委員
- ②公開シンポジウム「大学教育と職業との接続を考える
—大学生の就職をめぐる諸問題と当面の打開策—」について：藤永委員
- ③「経営学教育の在り方検討分科会」の提言(案)について：沼上委員
- ④2011年2月19日の公開シンポジウムについて
- ⑤今後のスケジュールについて ⑥その他

(8) 社会学委員会福祉職・介護職育成分科会 (第13回) (12月23日)

- ①報告書の最終確定 ②その他

(9) 社会学委員会社会福祉学分科会 (第12回) (12月23日)

- ①各大学における大学院教育の現状と課題について
同志社大学 上野谷 加代子 先生
ルーテル学院大学 福山 和女 先生
- ②その他

(10) 史学委員会文化財の保護と活用に関する分科会 (第6回) (1月7日)

- ①報告書の検討 ②その他

(11) 法学委員会「公の構造変化」分科会 (第9回) (1月12日)

- ①報告 橋本委員：「公共性について」 ②次回以降の日程 ③その他

(12) 地域研究委員会国際地域開発研究分科会 (第9回) (1月12日)

- ①国際開発協力に関する提言取りまとめについて ②その他

(13) 地域研究委員会人文・経済地理と地域教育分科会（第9回）（1月17日）

①第21期第8回分科会議事録（案）

②地域に関する提言案について ③地理教育について ④その他

(14) 心理学・教育学委員会教育の質向上検討分科会（第7回）（1月18日）

①報告書案内検討（各委員からの報告） ②その他

(15) 地域研究委員会（第3回）（1月20日）

①地域研究関係の提言とりまとめについて

②地域研究関連の学部教育質保証の取り組みについて

③その他

(16) 法学委員会法学系大学院分科会（第8回）（1月20日）

①3月16日シンポジウムの打ち合わせ

②今後のとりまとめについて

(17) 地域研究委員会地域研究基盤整備分科会（第1回）（1月21日）

①地域研究における学部教育の質保証基準の検討について

②第22期に向けての会員・連携会員の改選について ③その他

第二部担当

(1) 心理学・教育学委員会、臨床医学委員会、健康・生活科学委員会、環境学委員会、土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会（第13回）

（12月10日）

①成育方法に関する提言の審議状況の確認

②成育時間に関する提言について ③その他

(2) 心理学・教育学委員会、臨床医学委員会、健康・生活科学委員会、環境学委員会、土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会成育空間に関する政策提案検討小委員会

（第12回）（12月10日）

①省庁ヒアリングの進行状況 ②提言又は報告の骨子 ③その他

(3) 歯学委員会歯科医療制度に関する検討分科会（第2回）（12月17日）

①今後の分科会活動の内容について ②その他

(4) 歯学委員会病態系歯学分科会（第5回）（12月17日）

①病態系歯学分科会主催・市民公開シンポジウムについて

- ②「日本の展望2010・歯学分野の展望」のアクションプランについて
- ③今後の活動について ④その他

(5) **農学委員会・食料科学委員会合同IUSS分科会** (第6回) (12月21日)

- ①世界土壌科学会議(WCSS, Brisbane) 成果報告
- ②今後のIUSS分科会の活動(IUSS関係、ESAFS、PAWEE関係)
- ③その他

(6) **健康・生活科学委員会看護学分科会** (第11回) (12月23日)

- ①看護学分科会からの提言内容の検討「高度実践看護師制度の確立に向けて」
- ②その他

(7) **基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同総合微生物科学分科会** (第4回) **基礎生物学委員会・農学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同IUMS分科会** (第5回) **合同会議** (12月27日)

- ①IUMS2011の準備状況について ②その他

(8) **基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同植物科学分科会** (第5回) (12月27日)

- ①植物を利用したグリーンイノベーションの現状と今後の展望
- ②今後の分科会の課題について ③第21期の活動の総括について
- ④その他

(9) **健康・生活科学委員会生活科学分科会** (第16回) (12月27日)

- ①健康・生活科学委員会(親委員会)主催公開シンポジウムについて
- ②第3回公開講演会の準備について ③公開講演会後の活動について
- ④その他

(10) **健康・生活科学委員会** (第10回) (1月7日)

- ①分科会報告について ②公開シンポジウム運営と事後の対応について
- ③第二部主催公開シンポジウムについて ④その他

(11) **農学委員会農業経済学分科会** (第9回) (1月10日)

- ①提言の最終取りまとめ ②その他

(12) **歯学委員会** (第10回) (1月11日)

- ①日本の展望「歯学分野の展望」の活用等について ②その他

(13) **歯学委員会歯学教育分科会** (第3回) (1月11日)

- ①歯学教育の問題点と改善方策について ②その他

- (14) 農学委員会・食料科学委員会合同C I G R分科会（第9回）（1月12日）
 - ①C I G R新組織体制との関連について
 - ②C I G R国際シンポジウム2011の推進について ③その他
- (15) 農学委員会農業生産環境工学分科会（第9回）（1月21日）
 - ①農業生産環境工学分科会の今後の方針 ②その他
- (16) 薬学委員会生物系薬学分科会（第5回）（1月21日）
 - ①本日のシンポジウムについて ②次回のシンポジウムについて ③その他
- (17) 農学委員会応用昆虫学分科会（第7回）（1月22日）
 - ①提言・報告案の作成 ②その他
- (18) 健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会（第11回）（1月24日）
 - ①指針策定WGからの報告
 - 1) 提言の進捗状況について 2) シンポジウムの開催について
 - ②その他のWGからの報告 ③サイエンスカフェに関する報告
 - ④その他

第三部担当

- (1) 環境学委員会（第8回）（12月9日）
 - ①『これからの環境学』（仮）のための第2回ミニレクチャー
発表者：鷲谷委員、大垣委員、淡路委員、栗原委員
 - ②その他
- (2) 土木工学・建築学委員会地球環境の変化に伴う水害・土砂災害への対応分科会（第10回）（12月13日）
 - ①話題提供
 - 「これからの治水について」（九州大学工学研究院教授 小松 利光）
 - 「インフラストラクチャーの機能障害が経済に及ぼす影響に関して」（京都大学防災研究所教授 多々納 裕一）
 - ②今後の活動について
- (3) 機械工学委員会ロボット学分科会（第6回）（12月14日）
 - ①将来のロボットティクスについて ②今期の取り纏め方について ③その他
- (4) 基礎医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会研究用原子炉のあり方検討小委員会（第1回）（12月14日）

- ①小委員会役員の選出について ②小委員会委員等の追加について
- ③小委員会の進め方について ④話題提供 森山委員、柴山委員
- ⑤その他

(5) 地球惑星科学委員会 IUGS 分科会 IPA 小委員会 (第3回) (12月18日)

- ①IPAの動向について ②第34回 IGC Brisbane 大会について
- ③古生物科学に関連する状況について ④その他

(6) 総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会事故調査のあり方検討小委員会 (第6回) (12月20日)

- ①話題提供
「調査と捜査の国際比較」 菅井 雅昭 運輸安全委員会
「諸外国の事故調査」について 松岡 猛 委員長
- ②討議 「最高裁判決の考え方」について ③その他

(7) 総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会心と脳など新しい領域検討小委員会 (第5回) (12月22日)

- ①計算科学シミュレーションと工学設計分科会、他の小委員会の状況
- ②話題提供 大富 浩一氏 (東芝)
川人 光男氏 (ATR脳情報研究所)
北崎 智之氏 (日産自動車)
- ③第2回計算科学シミュレーションシンポジウムについて ④その他

(8) 総合工学委員会エネルギーと人間社会に関する分科会放射性廃棄物と人間社会小委員会 (第5回) (12月22日)

- ①高レベル放射性廃棄物の地層処分の課題と国の関与
苗村 公嗣氏 (経済産業省)
- ②高レベル放射性廃棄物の地層処分の長期安全性と信頼構築
梅木 博之氏 (原子力研究開発機構)
- ③高レベル放射性廃棄物の地層処分への戦略 ④その他

(9) 総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会遺棄および老朽化学兵器の廃棄技術に関するリスク検討小委員会

- (第10回) (12月22日)
- ①提言の原稿 (案) について ②その他

(10) 地球惑星科学委員会 INQUA 分科会 (第5回) (12月27日)

- ①2011年第18回 INQUA 大会への対応
- ②2015年第19回 INQUA 大会招致活動

③会員・連携会員の選出について ④その他

(11) **地球惑星科学委員会地球惑星科学企画分科会** (第14回) (12月27日)

- ①学術の大型研究について ②夢ロードマップについて
- ③地質地盤情報共有化について ④地球惑星科学連合との連携について
- ⑤その他

(12) **地球惑星科学委員会** (第6回) (12月27日)

- ①学術の大型研究について ②夢ロードマップについて
- ③地質地盤情報共有化について ④その他

(13) **総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会計算力学小委員会** (第1回) (12月27日)

- ①委員自己紹介 ②役員等選出 ③小委員会の目的と進め方について
- ④その他

(14) **健康・生活科学委員会・環境学委員会合同環境リスク分科会**
(第5回) (1月7日)

- ①これまでの活動報告 ②環境リスクにおける人材育成についての報告書のとりまとめについて ③その他

(15) **土木工学・建築学委員会国土と環境分科会** (第10回) (1月11日)

- ① 提言目次と執筆担当の最終確認 ②その他

(16) **電気電子工学委員会電気電子工学企画分科会** (第7回) (1月11日)

- ①次期会員、連携会員の推薦について
- ②電気電子工学のあり方に関する提言の取りまとめについて
- ③電気情報系学協会との連携について
- ④5月開催シンポジウムについて

(17) **総合工学委員会エネルギーと人間社会に関する分科会放射性廃棄物と人間社会小委員会** (第6回) (1月12日)

- ①「高レベル放射性廃棄物の地層処分のための研究開発」
ー地球科学の立場から 千木良委員
- ②「高レベル放射性廃棄物の地層処分への戦略」
ー研究の進め方 入倉委員
- ③その他

(18) **電気電子工学委員会デバイス・電子機器工学分科会** (第2回) (1月12日)

- ①次期会員、連携会員の推薦について

- ②電気電子工学のあり方に関する提言の取りまとめについて
- ③電気情報系学協会との連携について

(19) **土木工学・建築学委員会低炭素建築・都市分科会**（第7回）**土木工学・建築学委員会社会資本分科会**（第8回）（1月13日）

- ①開催したシンポジウムについて ②委員会成果としての「記録」の作成
- ③話題提供（日本政策投資銀行事業開発部CSR支援室長 竹ヶ原啓介氏）
- ④今後の検討課題

(20) **地球惑星科学委員会SCOR分科会**（第6回）（1月14日）

- ①学術会議大型計画申請について
- ②地球惑星科学委員会「夢ロードマップ」について
- ③春季海洋学会にともなうブレーク・スルー研究シンポジウム提案
- ④SCOR分科会と地球惑星科学委員会他との関係について
- ⑤その他

(21) **地球惑星科学委員会IGU分科会**（第8回）（1月17日）

- ①IGU副会長選挙について ②IGU役員会（北京）について
- ③名古屋で行われたIGU会長等との懇談会について
- ④2013年京都国際地理学会議について
- ⑤地理オリンピックについて ⑥IAG小委員会について
- ⑦ICA小委員会について ⑧地理関連分科会の活動について ⑨その他

(22) **総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会**（第5回）（1月17日）

- ①アジア諸国との連携「報告」（案） ②その他

(23) **土木工学・建築学委員会景観と文化分科会**（第12回）（1月17日）

- ①提言のとりまとめについて ②その他

(24) **地球惑星科学委員会IGU分科会ICA小委員会**（第3回）（1月17日）

- ①ICAパリ大会への対応
 - 1) 国際地図展について
 - 2) 国際子供地図展について
 - 3) ナショナルレポートについて
 - 4) 代表派遣者 正・副代表者について
 - 5) 議題提案について－ICA定款に関すること
 - －次期会長・副会長・事務局長の推薦
 - －次期コミッション・委員長の推薦
 - －2015年ICA総会ICC大会開催地の立候補
 - －ICA表彰候補者の推薦

6) その他

- (25) 基礎医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会研究用原子炉のあり方検討小委員会（第2回）（1月18日）
①今後の進め方について ②話題提供 ③その他
- (26) 土木工学・建築学委員会河川流出モデル・基本高水評価検討等分科会（第1回）（1月19日）
①委員紹介・分科会の主旨説明
②役員の決定（委員長、副委員長、幹事）
③利根川水系の流出・基本高水等説明および質疑 ④今後の予定 ⑤その他
- (27) 総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会遺棄および老朽化学兵器の廃棄技術に関するリスク検討小委員会（第11回）（1月21日）
①提言の原稿（案）についての取りまとめ ②その他
- (28) 基礎医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会（第5回）（1月25日）
①放射線作業者の被ばくの一元管理に関する現状
②医療現場の二重規制に関するアンケート等の現状
③シンポジウムについて ④その他
- (29) 環境学委員会環境政策・環境計画分科会（第7回）（1月27日）
①第21期報告書とりまとめの方向性について
・第3章「環境政策・環境計画からのアプローチ」に関わる報告
淡路委員長、松岡委員、福井委員、佐藤委員
・「湾岸共生循環圏」報告 石川委員
- (30) 総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会（第6回）（1月27日）
①各小委員会報告 ②分科会まとめ方について検討
③各小委員会報告・記録審議 ④その他
- (31) 化学委員会分析化学分科会（第9回）（1月27日）
①分科会主催講演会（5/20）について
②未来への提言について ③今年の活動計画 ④その他

5 課題別委員会の開催とその議題

- (1) 労働雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会（第14回）（12月10日）
 - ①提言の最終文案整理 ②その他
- (2) 医師の専門職自律検討委員会（第2回）（12月13日）
 - ①今後のスケジュールについて
 - ②法曹界における全員加盟型組織について ③今後の活動等について
 - ④その他
- (3) 高レベル放射性廃棄物の処分に関する検討委員会役員会（第1回）（12月15日）
 - ①今後の進め方について ②その他
- (4) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会拡大役員会（第11回）（12月20日）
 - ①大学教育の分野別質保証の在り方について ②その他
- (5) 高レベル放射性廃棄物の処分に関する検討委員会（第2回）（12月22日）
 - ①東洋町の事例について ②追加委員の推薦について
 - ③今後の進め方について ④その他
- (6) 自然災害軽減のための国際協力のあり方検討委員会国際プログラム連携分科会（第7回）および土木工学・建築学委員会学際連携分科会IRDR（災害リスク統合研究）小委員会（第3回）合同会議（12月27日）
 - ①本年活動レビュー（添付資料参照）
 - ② 我が国のFORIN活動計画と本部活動への参加計画
 - ③ 2011年10月24－26日（未定）のIRDR北京会議へ向けての活動
 - ④その他
- (7) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会学位に付記する専攻分野の名称の在り方検討分科会（第1回）（12月27日）
 - ①委員長、副委員長及び幹事の選出について ②今後の進め方について
 - ③その他
- (8) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会言語・文学分野の参照基準検討分科会（第1回）（12月27日）
 - ①委員長、副委員長及び幹事の選出について ②今後の進め方について
 - ③その他
- (9) 社会のための学術としての「知の統合」推進委員会（第2回）（12月28日）
 - ①文の知と理の知の「知の統合」について

- ②知の統合の事例紹介
- ③今後の進め方について ④その他

(10) 持続可能な長寿社会に資する学術コミュニティーの構築委員会ジェロントロジー教育分科会（第5回）（1月6日）

- ① 提言案の検討について ②その他

(11) 労働雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会（第15回）（1月9日）

- ①提言案について ②その他

(12) 持続可能な長寿社会に資する学術コミュニティーの構築委員会持続可能な長寿社会に資する学術のロードマップ分科会（第5回）（1月11日）

- ①提言案について ②その他

(13) 社会のための学術としての「知の統合」推進委員会役員会（第1回）（1月11日）

- ①今後のとりまとめについて ②その他

(14) 高レベル放射性廃棄物の処分に関する検討委員会（第3回）（1月12日）

- ①市民団体の活動状況について ②今後の進め方について ③その他

(15) 東アジア共同体の学術基盤形成委員会（第3回）（1月18日）

- ①アジア地域における学術交流の経験について ②報告書について ③その他

(16) 医師の専門職自律検討委員会（第3回）（1月27日）

- ①児玉安司先生、田辺功先生からのヒアリングについて
- ②今後の方針等について ③その他

6 サイエンスカフェの開催

(1) 1月5日（水）14：00～16：00

場 所：青森市男女共同参画プラザ（アウガ5F）AV 多機能ホール・研修室

テーマ：新春サイエンス・カフェ「科学を語る」

—唐牛先生と北原先生を囲んで—

出演：唐牛 宏（東京大学特任教授）

北原 和夫（日本学術会議連携会員、国際基督教大学教授）

(2) 1月8日（土）15：30～18：00

場 所：北海道教育大学旭川校 P202教室

テーマ：持続可能な世界に向けたチャレンジ

講師：中島 映至（東京大学大気海洋研究所教授、日本学術会議会員）
氷見山 幸夫（北海道教育大学教授、日本学術会議連携会員）

（３）１月１６日（日）１５：００～１７：００
場 所：東京都臨床医学総合研究所 ２階講堂
テーマ：サイエンスカフェ in 上北沢 第６回 「細胞内リサイクルシステムー長く健康に生きるヒント」
話題提供者：田中 啓二

７ 総合科学技術会議報告

１．本会議

本会議（第９４回）１２月１０日

- （１）平成２３年度科学・技術関係予算の編成に向けて
- （２）第４期科学技術基本計画策定に向けた検討状況について

本会議（第９５回）１２月２４日

- （１）諮問第１１号「科学技術に関する基本政策について」に対する答申

２．専門調査会

基本政策専門調査会（第１２回）１２月１５日

- （１）「科学技術に関する基本政策について」（答申案）について
- （２）その他

研究開発システムワーキンググループ（第１３回）１２月１４日

- （１）とりまとめに向けた検討について
- （２）その他

評価専門調査会（第８４回）（１２月９日）

- ①国の研究開発評価に関する大綱的指針のフォローアップ
 - （１）各府省における評価指針の改定及び評価の実施状況
 - （２）PDCA サイクル構築に向けた取組事例
 - （３）大綱的指針に沿った研究開発評価の実施状況のフォローアップに係る今後の取組み
- ②その他

生命倫理専門調査会（第６２回）（１２月１５日）

- ①ヒト受精卵の作成を行う生殖補助医療研究に関する倫理指針の報告
- ②機関内倫理審査委員会に関する調査研究報告
- ③生命倫理関連国際会議の出席報告

- (1) 第8回国家生命倫理諮問機関世界サミット
- (2) 第17回ユネスコ国際生命倫理委員会（IBC）
IBC・政府間生命倫理委員会（IGBC）合同会議

④その他

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

12月9日	会長出席
12月16日	会長欠席
1月6日	会長出席
1月13日	会長出席
1月20日	会長出席
1月27日	会長出席予定

8 慶弔

○ 慶事

◇ 日本学士院会員（平成22年12月13日）

小山 貞夫（東北大学名誉教授）第20、21期連携会員

藤田 昌久（甲南大学特別客員教授）第20、21期会員

益川 敏英（名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長）第17期会員、第21期連携会員

黒岩 常祥（立教大学特任教授）第19～21期会員

小林 誠（日本学術振興会理事）第21期連携会員

長田 重一（京都大学教授）第20期連携会員、第21期会員

内田 祥哉（工学院大学特任教授）第16期会員

飯島 澄男（名城大学教授）第20、21期連携会員

○ ご逝去

西川 哲治（にしかわてつじ）84歳 12月15日 第13、14期
会員 第4部 元高エネルギー物理学研
究所長、元東京理科大学学長

寺山 宏（てらやまひろし）88歳 12月17日 第13期会員
第4部 東京大学名誉教授

宅間 宏（たくまひろし）80歳 12月27日 電気通信大学名誉教授
第15、16期会員 第4部 第20、21期連携会員

佐野 圭司（さのけいじ）90歳 1月6日 東京大学名誉教授 第13、14期
会員 第7部

審 議 事 項

		頁
I 審議事項		
1 委員会関係	提案1 選考委員会における分科会委員の決定	1
	提案2 国際委員会における分科会の委員の決定	4
	提案3 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会における分科会委員の決定	5
	提案4 科学・技術を担う将来世代の育成方策検討委員会の委員の決定	7
	提案5 研究にかかわる『評価システム』の在り方検討委員会の委員の決定	9
2 選考関係	提案6 補欠の会員の候補者を推薦する部の決定	11
3 団体等の指定	提案7 日本学術会議協力学術研究団体の指定	14
	提案8 学術刊行物の指定	16
4 国際会議関係	提案9 第21回国際科学会議科学計画評価委員会 (21th Meeting of the ICSU Committee on Scientific Planning and Review (CSPR)) 及び国際科学会議Foresight Workshop出席に係る会員の派遣	17
	提案10 第1回Conference for Young Scientists & GYA総会への会員の派遣	18
5 シンポジウム等	提案11 グローバル化の時代における法と法学教育：国際関係法を中心に	20
	提案12 学士課程教育における経営学教育の在り方—経営学教育の質保証に向けて—	22
	提案13 心の先端研究への期待	24
	提案14 生体医工学フォーラム2011「異分野連携によるライフイノベーションのための医療技術開発の課題」	26
	提案15 市民公開講座「21世紀の再生医療」	29
	提案16 第4回情報学シンポジウム“VISION, MISSION, PASSION - The Fourth Paradigm in every aspect is coming soon”	31
	提案17 公開シンポジウム「今、アイヌであること—共に生きるための政策をめざして」	33
	提案18 公開シンポジウム「子どもを元気にする運動・スポーツの適正実施のための基本指針」	35
	提案19 データ同化：計測と計算の限界を超えて	37
	提案20 資源環境型ものづくりを実現するための学術的指針	38
	提案21 公開シンポジウム「一人ぐらし高齢者が自分らしく生きることを支えるために」	40
	提案22 公開シンポジウム「口蹄疫および鳥インフルエンザ発生の状況把握とその行方」	42
	提案23 福祉職・介護職の専門性の向上と社会的待遇の改善に向けて	45
	提案24 公開シンポジウム「健康増進・地域医療・医療費適正化計画とデータ活用：生活習慣病の予防・治療システムの戦略的構築へ」	46
	提案25 公開シンポジウム「口蹄疫禍から考える我が国の畜産」	48
	提案26 科学・技術の過去・現在・未来—ゆめロードマップ—	50
	提案27 第55回材料工学連合講演会	52
6 後援	提案28 国内会議	54

1	
幹事会	1 1 5

提 案

選考委員会における分科会委員の決定について

- 1 提 案 者 選考委員会委員長、第一部部長、第二部部長、第三部部長
- 2 議 案 選考委員会における分科会委員の決定（4件）
- 3 提案理由 選考委員会における分科会委員を下記のとおり決定するため。

記

○ 委員の決定（新規4件）

（選考委員会 連携会員特別選考分科会）（4名）

氏名	日本学術会議での役職
小林 良彰	選考委員会幹事
長谷川 壽一	選考委員会委員
矢澤 進	選考委員会委員
武市 正人	選考委員会委員

（選考委員会 人文・社会科学選考分科会）（25名）

氏名	日本学術会議での役職
鈴木 興太郎	副会長
広渡 清吾	第一部部長、選考委員会委員
小林 良彰	第一部副部長、選考委員会幹事、政治学委員会委員長
木村 茂光	第一部幹事
山本 眞鳥	第一部幹事
直井 優	選考委員会委員、社会学委員会委員長
長谷川 壽一	選考委員会委員
庄垣内 正弘	言語・文学委員会委員長
藤井 省三	言語・文学委員会副委員長
野家 啓一	哲学委員会委員長
丸井 浩	哲学委員会副委員長
内田 伸子	心理学・教育学委員会委員長
秋田 喜代美	心理学・教育学委員会副委員長
白澤 政和	社会学委員会副委員長

小谷 汪之	史学委員会委員長
木下 尚子	史学委員会副委員長
油井 大三郎	地域研究委員会委員長
碓井 照子	地域研究委員会副委員長
淡路 剛久	法学委員会委員長
池田 眞朗	法学委員会副委員長
猪口 邦子	政治学委員会副委員長
岩井 克人	経済学委員会委員長
樋口 美雄	経済学委員会副委員長
白田 佳子	経営学委員会委員長
藤本 隆宏	経営学委員会副委員長

（ 選考委員会 生命科学選考分科会 ）（ 24 名）

氏名	日本学術会議での役職
唐木 英明	副会長
浅島 誠	第二部部長
北島 政樹	第二部副部長、選考委員会委員
山本 正幸	第二部幹事
鷲谷 いづみ	第二部幹事、統合生物学委員会委員長
黒岩 常祥	選考委員会幹事、基礎生物学委員会委員長
岸 玲子	選考委員会委員
矢澤 進	選考委員会委員
小原 雄治	基礎生物学委員会副委員長
斎藤 成也	統合生物学委員会副委員長
真木 太一	農学委員会委員長
西澤 直子	農学委員会副委員長
山内 皓平	食料科学委員会委員長
野口 伸	食料科学委員会幹事
谷口 直之	基礎医学委員会委員長
鍋島 陽一	基礎医学委員会副委員長
桐野 高明	臨床医学委員会委員長
福井 次矢	臨床医学委員会副委員長
南 裕子	健康・生活科学委員会委員長
春日 文子	健康・生活科学委員会幹事
渡邊 誠	歯学委員会委員長
米田 俊之	歯学委員会副委員長
橋田 充	薬学委員会委員長
柴崎 正勝	薬学委員会副委員長

（ 選考委員会 理学・工学選考分科会 ）（ 28 名）

氏名	日本学術会議での役職
大垣 眞一郎	副会長、選考委員会委員
岩澤 康裕	第三部部長、選考委員会副委員長

後藤 俊夫	第三部副部長
池田 駿介	第三部幹事
永宮 正治	第三部幹事
岸浪 建史	選考委員会委員
武市 正人	選考委員会委員、情報学委員会副委員長
馬越 佑吉	選考委員会委員、材料工学委員会委員長
進士 五十八	環境学委員会委員長
石川 幹子	環境学委員会副委員長
楠岡 成雄	数理科学委員会委員長
柏原 正樹	数理科学委員会副委員長
伊藤 早苗	物理学委員会委員長
家 泰弘	物理学委員会副委員長
平 朝彦	地球惑星科学委員会委員長
中島 映至	地球惑星科学委員会委員
村岡 洋一	情報学委員会委員長
藤嶋 昭	化学委員会委員長
玉尾 皓平	化学委員会副委員長
矢川 元基	総合工学委員会委員長
荒川 泰彦	総合工学委員会幹事
笠木 伸英	機械工学委員会委員長
古川 勇二	機械工学委員会副委員長
田中 英彦	電気電子工学委員会委員長
伊澤 達夫	電気電子工学委員会副委員長
濱田 政則	土木工学・建築学委員会委員長
仙田 満	土木工学・建築学委員会副委員長
前田 正史	材料工学委員会副委員長

2	
幹事会	1 1 5

提 案

国際委員会における分科会の委員の決定

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 国際委員会における分科会の委員の決定（1件）
- 3 提案理由 下記の国際委員会における分科会の委員の決定をする必要があるため。

記

○ 委員の決定（追加1件）

（国際委員会 ICSU 分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
山形 俊男	東京大学大学院理学系研究科長・理学部長	連携会員

3	
幹事会	1 1 5

提 案

大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会における 分科会委員の決定について

- 1 提案者 第一部部長、第三部部長
- 2 議 案 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会における分科会委員の決定（1件）
- 3 提案理由 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会における分科会委員を決定するため。

○ 委員の決定（新規 1 件）

（ 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 法学分野の参照基準検討分科
会 ）

氏 名	所属・職名	備 考
吾郷 眞一	九州大学大学院法学研究院教授	第一部会員
浅倉むつ子	早稲田大学大学院法務研究科教授	第一部会員
淡路 剛久	早稲田大学大学院法務研究科教授	第一部会員
池田 眞朗	慶應義塾大学大学院法務研究科教授	第一部会員
磯村 保	神戸大学大学院法学研究科教授	第一部会員
井田 良	慶應義塾大学大学院法務研究科教授	第一部会員
井上 達夫	東京大学大学院法学政治学研究科教授	第一部会員
河野 正憲	福岡大学法科大学院教授	第一部会員
辻村みよ子	東北大学大学院法学研究科教授	第一部会員
長谷部恭男	東京大学大学院法学政治学研究科教授	第一部会員
廣渡 清吾	専修大学法学部教授	第一部会員
浦川道太郎	早稲田大学法学学術院教授	※連携会員
寺田 浩明	京都大学大学院法学研究科教授	連携会員
北村 隆行	京都大学大学院工学研究科教授	※第三部会員

※は大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会委員。

4	
幹事会	1 1 5

提 案

科学・技術を担う将来世代の育成方策検討委員会の委員の決定について

- 1 提案者 第一部部長、第二部部長、第三部部長
- 2 議 案 科学・技術を担う将来世代の育成方策検討委員会の委員の決定
(1 件)
- 3 提案理由 科学・技術を担う将来世代の育成方策検討委員会の委員を決定
するため。

記

○ 委員の決定（新規 1 件）

（ 科学・技術を担う将来世代の育成方策検討委員会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考	推薦部
藤田 英典	立教大学文学部教授	第一部会員	第一部
内田 伸子	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授	第一部会員	第一部
木村 茂光	東京学芸大学教育学部教授	第一部会員	第一部
井田 良	慶應義塾大学大学院法務研究科教授	第一部会員	第一部
青柳 正規	国立西洋美術館館長	第一部会員	第一部
片山 倫子	東京家政大学家政学部教授	第二部会員	第二部
山本 正幸	東京大学大学院理学系研究科教授	第二部会員	第二部
谷口 直之	大阪大学産業科学研究所教授	第二部会員	第二部
今井 浩三	東京大学医科学研究所附属病院長・教授	第二部会員	第二部
野口 伸	北海道大学大学院農学研究院教授	第二部会員	第二部
荒川 泰彦	東京大学先端科学技術研究センター教授	第三部会員	第三部
柘植 綾夫	芝浦工業大学学長	第三部会員	第三部

楠岡 成雄	東京大学大学院数理科学研究科教授	第三部会員	第三部
奥村 次徳	首都大学東京大学院理工学研究科教授・ 理工学研究科長	連携会員	第三部
福住 俊一	大阪大学大学院工学研究科生命先端工学 専攻教授	連携会員	第三部

5	
幹事会	1 1 5

提 案

研究にかかわる『評価システム』の在り方検討委員会の委員の決定について

- 1 提案者 第一部部長、第二部部長、第三部部長
- 2 議 案 研究にかかわる『評価システム』の在り方検討委員会の委員の決定。
- 3 提案理由 研究にかかわる『評価システム』の在り方検討委員会の委員を決定するため。

記

○ 委員の決定（新規 1 件）

（ 研究にかかわる『評価システム』の在り方検討委員会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考	推薦部
今西祐一郎	人間文化研究機構国文学研究資料館館長	第一部会員	第一部
大沢 真理	東京大学社会科学研究所教授	第一部会員	第一部
小林 良彰	慶應義塾大学法学部教授・同大学多文化市民意識研究センター長	第一部会員	第一部
金子 元久	独立行政法人国立大学財務・経営センター研究部教授	連携会員	第一部
満屋 裕明	熊本大学大学院医学薬学研究部教授	第二部会員	第二部
室伏 きみ子	お茶の水女子大学理学部・大学院人間文化創成科学研究科教授	第二部会員	第二部
清水 孝雄	東京大学大学院医学系研究科教授	連携会員	第二部
本間 研一	北海道大学医学研究科教授	連携会員	第二部
安西 祐一郎	慶應義塾学事顧問、慶應義塾大学理工学部教授	第三部会員	第三部
笠木 伸英	東京大学大学院工学系研究科教授	第三部会員	第三部

家 泰弘	東京大学物性研究所所長、教授	第三部会員	第三部
馬越 佑吉	大阪大学名誉教授	第三部会員	第三部
巽 和行	名古屋大学物質科学国際研究センター教授(センター長)	第三部会員	第三部
藤井 孝藏	独立行政法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究副所長・教授	連携会員	第三部
相原 博昭	東京大学大学院理学系研究科教授	連携会員	第三部

6	
幹事会	1 1 5

提 案

補欠の会員の候補者を推薦する部の決定について

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 定年により退任する金澤一郎会員、廣瀬和子会員、片山倫子会員及び北島政樹会員の補欠の会員の候補者を推薦する部を決定すること。
- 3 提案理由 金澤一郎会員、廣瀬和子会員、片山倫子会員及び北島政樹会員の定年に伴い、それぞれの補欠の会員を選任するため、その候補者を推薦する部を決定する必要があるため。

(参考1) 定年到来日(誕生日の前日)

金澤一郎：平成23年6月19日、廣瀬和子：平成23年6月21日

片山倫子：平成23年7月3日、北島政樹：平成23年8月1日

(参考2)

●補欠の会員の選考手続について(平成18年6月22日第18回幹事会申合せ)

1. 幹事会は、前任者の専門分野等を考慮して補欠の会員の候補者(以下「候補者」という。)の推薦を依頼する部を決定する。
2. 会長は、幹事会の決定を受けて当該部に対し、候補者の推薦を依頼する。
3. 依頼を受けた部は、一般の連携会員の中から5人以内の複数の候補者を選定し、別紙様式により選考委員会に推薦する。
- 4～5. (略)
6. 本申合せによる選考手続は、補欠の会員を選任する事由が発生した後遅滞なく開始し、適時に総会の承認を得ることができるように行うものとする。

ただし、前任者の退任事由が定年である場合には、適時に総会の承認を得ることができるようにするため、前任者の定年に達する日に先立ち手続を開始することができる。

(参考 3)

金澤一郎会員外 3 名の後任者となる者（補欠の会員）の選考手続

時 期	概 要	備 考
平成 23 年 1 月 27 日（木）	【幹事会】 ○推薦部を決定	
1 月下旬	○会長から推薦部長あてに候補者の推薦依頼 ～推薦部による検討～	
2 月 22 日（火）	○同上の推薦期限	
2 月 25 日（金）	【選考委員会】 ○候補者の名簿（順位を付して）の作成（決定）	
3 月 17 日（木）	【幹事会】 ○1 人の候補者を選定（決定）	
4 月 4 日（月）	【総会】 ○提案・承認	
発令日 30 日前まで	○会長から内閣総理大臣あてに候補者を推薦 ※定年到来日	※内閣府令
発令日 ※定年到来日の 翌日	○後任者（補欠の会員）の発令 任期は、平成 26 年 9 月 30 日（前任者の残任期間）	

1 平成23年12月末までに、任期途中で、定年が到来する会員

① 平成23年9月30日任期満了の会員

該当者なし。

② 平成26年9月30日任期満了の会員

以下の8名が該当する。

- ・小舘 香椎子（第3部）⇒平成23年1月17日定年到来⇒後任は22年10月総会決定済
- ・金澤 一郎（第2部）⇒平成23年6月19日定年到来⇒後任は23年4月総会決定
- ・廣瀬 和子（第1部）⇒平成23年6月21日定年到来⇒後任は23年4月総会決定
- ・片山 倫子（第2部）⇒平成23年7月3日定年到来⇒後任は23年4月総会決定
- ・北島 政樹（第2部）⇒平成23年8月1日定年到来⇒後任は23年4月総会決定
- ・佐久間 健人（第3部）⇒平成23年9月6日定年到来⇒後任は23年7月総会決定
- ・柏 典夫（第3部）⇒平成23年9月16日定年到来⇒後任は23年7月総会決定
- ・伊澤 達夫（第3部）⇒平成23年12月23日定年到来⇒後任は23年10月総会決定

※定年が到来する日は、誕生日の前日となる。

※上記の者の補欠の会員の任期は、平成26年9月30日（前任者の残任期間）

2 任期途中で定年が到来した会員（先例）

氏 名	定年が到来した日	任期	後任者（補欠）
黒川 清	平成18年9月10日	平成20年9月30日	平成18年12月1日 任命
木村 孟	平成20年3月7日	平成20年9月30日	—
野依 良治	平成20年9月2日	平成20年9月30日	—

3 任期途中で退任した会員（先例）

氏 名	退任した日・理由	任期	後任者（補欠）
鶴尾 隆	平成20年12月16日 死亡	平成23年9月30日	平成21年6月1日 任命
田野 保雄	平成21年1月31日 死亡	平成23年9月30日	平成21年6月1日 任命

7	
幹事会	1 1 5

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答すること
としたい。

記

○ 指定することを適当と認める。

(申請団体名)

- ・ 日本ピューリタニズム学会
- ・ 日本防衛学会
- ・ 日本ブリーフセラピー協会
- ・ 関係性の教育学会
- ・ 富山考古学会
- ・ 日本家畜臨床感染症研究会
- ・ 15 年戦争と日本の医学医療研究会
- ・ 移民政策学会

※平成 23 年 1 月 27 日現在 1854 団体(上記申請団体を含む。)

※ 団体の概要

- ・ 日本ピューリタニズム学会
ピューリタニズム(清教徒主義)及びそれに広くかかわる諸分野に関する研究を促進し、研究者の相互交流を図ることを目的としている。
- ・ 日本防衛学会
21 世紀の高度化し流動化する国際社会にあって、実効的な安全保障研究のため、学者・研究者と実務家・専門家との連携協力が不可欠であるとの認識を共有し、両者の参画を得て国の防衛と国際の平和に関する学術研究の充実・発展を図るとともに、会員の研究の助長及び会員相互の親睦を図ることを目的としている。

- 日本ブリーフセラピー協会
ブリーフセラピー（短期療法）実践者の養成及び新しい技術の開発、情報の収集及び発信などを通じて広く市民の精神衛生の向上及び健康に寄与することを目的としている。
- 関係性の教育学会
関係性の教育（知識詰め込み型の教育を鋭く批判し、自由への実践としての教育の再生を求めてベル・フックスにより提唱された教育学）をすすめるための研究及び実践活動を行うとともに、人権、平和などの実現のための国際的な研究のための協働、連携をすすめることを目的としている。
- 富山考古学会
富山県を中心とする地域の考古学の研究と普及及び文化財保護活動を行うことを目的としている。
- 日本家畜臨床感染症研究会
家畜の感染症に関連した臨床的・基礎的研究の発展並びに知識の普及を図り、会員相互の学術的協力を行い、もって獣医畜産学の発展、獣医医療の向上に寄与することを目的としている。
- 15年戦争と日本の医学医療研究会
15年戦争（1931年の満州事変から1945年の太平洋戦争の終結に至るまでの戦争）における日本医学医療界の史実の研究を目的としている。
- 移民政策学会
会員の相互協力により国際的な視野にたって、移民政策の総合的な研究を理論的、実証的に深め、発展させることを目的としている。

8	
幹事会	1 1 5

提 案

学術刊行物の指定

1. 提 案 者 会 長

2. 議 案 学術刊行物の審査結果を回答すること

3. 提 案 理 由 学術刊行物への新規申し込みのあった刊行物について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答することとしたい。

記

○ 指定することを適当と認める。

(申請団体名)

現象学年報

日本現象学会

スポーツ心理学研究

日本スポーツ心理学会

西日本臨床小児口腔外科学会雑誌

西日本臨床小児口腔外科学会

RADIOISOTOPES

日本アイソトープ協会

科学と工業

大阪工研協会

以上

9	
幹事会	1 1 5

提 案

第 21 回国際科学会議科学計画評価委員会（21th Meeting of the ICSU Committee on Scientific Planning and Review (CSPR)）及び国際科学会議 Foresight Workshop 出席に係る会員の派遣

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 第 21 回国際科学会議科学計画評価委員会及び国際科学会議 Foresight Workshop に以下のとおり会員を派遣することとした
い。
- 4 派 遣 者 黒田 玲子（第三部会員）
- 5 委員会期間 平成 23 年 3 月 30 日（水）～ 4 月 1 日（金）
- 6 派遣場所 パリ近郊（フランス）
- 7 開催趣旨 科学計画評価委員会（Committee on Scientific Planning and Review: CSPR）は、1998 年に国際科学会議に設置され、年に約 2 回開催されている。議題は、ICSU 戦略計画（2006 年-2011 年）を踏まえた執行状況の検討及び、次期戦略計画（2012 年-2017 年）策定に係る議論をはじめ、ICSU の各種事業の計画・評価に係る事項となっている。また、今回、科学計画評価委員会とあわせて行われる Foresight Workshop では、ICSU Foresight Analysis について検討を行う。

1 0	
幹事会	1 1 5

提 案

第1回 Conference for Young Scientists & GYA 総会への会員の派遣

- 1 提 案 者 若手アカデミー委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 第1回 Conference for Young Scientists & GYA 総会に以下のとおり会員を派遣することとしたい。
- 4 派遣者 竹村 仁美 (特任連携会員：若手アカデミー委員会)
中村 征樹 (特任連携会員：若手アカデミー委員会)
駒井 章治 (特任連携会員：若手アカデミー委員会)
田中 由浩 (特任連携会員：若手アカデミー委員会)
- 5 会議期間 平成23年3月21日(月)～23日(水)
- 6 派遣場所 アレキサンドリア(エジプト)
- 7 開催趣旨

GYAは、若手科学者・若手研究者の地球規模の学術組織であり、当組織には、自然科学、社会科学の様々な分野から研究者が集っている。今回は、GYA立ち上げ後の初会議であり、GYAのメンバーだけでなく諸アカデミーの代表、政策決定者、オブザーバー、メディアも参加する。地球規模での持続可能性を主なテーマとし、発表や議論を行う。また、GYAの目指す枠組みや取組についても議論される予定である。会合の概要等については別添資料を参照のこと。



Egyptian
Chamber of
Commerce in
Alexandria

The First Conference for Young Scientists
& the Inaugural General Assembly
of
The Global Young Academy (GYA)
(GYAGA-2011)

The role of young scientists in global sustainable development

21-23 March 2011
Bibliotheca Alexandrina
Alexandria, Egypt

Venue: Bibliotheca Alexandrina, a major cultural center located on the shores of the Mediterranean in the Egyptian city of Alexandria.

Invitation: The Global Young Academy is honored to invite top young scientists to attend the three day international conference. Participants will include the members of the GYA, composed of future scientific leaders nominated by their national academies, and other invited delegates, such as representatives from global and regional academies such as IAP, IAMP, NASIC, ALLEA, TWAS, policy makers, observers, and media representatives. The event, focusing on global sustainability, will include invited presentations, panels and round table discussions. Other subjects will be discussed in the framework of the GYA goals and the efforts advanced by the GYA's working groups.

Objectives of the conference: Launch new collaborative projects, programs and develop policy statements on:

- Empowering young scientists to overcome challenges of early career research
- Early career development for young scientists
 - Challenges and good practices for supporting gender equality issues
 - Science education and emerging issues in teaching and learning of science
- Role of science in solving societal challenges and involvement in global politics
- Expanding the roles and creation of national young academies
- Inter-disciplinary research for global and regional sustainability and welfare such as :
 - Water resources, policies and investments
 - Energy
 - Biotechnology
 - Nanotechnology
 - Green technologies, Environment and Pollution
 - Future of interdisciplinary climate change research
- Review and approve the GYA constitution, proposals, activities and administrative plans of GYA
- Election of the new Executive Committee of the GYA

Participation: Each participant should give a scientific contribution, either a poster or 10-minute talk about his/her most prominent and recent scientific approach or research (all areas, including fields not mentioned above). GYA events are highly interactive, and participants can expect to be actively engaged throughout the meeting. Participation in all sessions is expected, and attendees should plan any non-conference activities on separate days at their own expense.

Program: A structured program to be presented over three days will be announced shortly before the meeting.

Application Deadline: December 21st, 2010. Application is attached here or can be downloaded at www.globalyoungacademy.org.

Conference fees and accommodation: Participants are highly encouraged to raise their own travel expenses from their home national academies or other sources of support. Generous donations have been raised from our sponsors to support local costs (accommodations, conference costs and local transportation), and some limited funding for partial airfare is available. Thoroughly completed applications submitted on time will receive higher priority.

Correspondence: All correspondences should be addressed to the Conference Coordinator, Dr. Amal Amin, at the following email address: aamin_2011@yahoo.com

1 1	
幹事会	1 1 5

提 案

「グローバル化の時代における法と法学教育：国際関係法を中心に」の開催について

- 1 提案者 法学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 法学委員会「グローバル化と法」分科会、国際法学会
2. 日 時 平成23年2月14日（月）13～17時
3. 場 所 日本学術会議6 A (1) (2)会議室
4. 委員会等の開催 同日開催予定

5. 開催趣旨

グローバル化の進行に伴い、それに対処できる人材の養成が喫緊の課題となるが、分科会の検討結果を踏まえて、国際関係法教育を基本に据えつつ、広く実務における問題をも視野に入れながら、現状の把握と解決の方向性を探る。

6. 次 第

司 会：松井 芳郎（日本学術会議連携会員、立命館大学教授）

開会挨拶：広渡 清吾（日本学術会議第一部長、専修大学教授）

第1セッション：国際関係法教育における国際的な経験

- * 「国際法研究・教育におけるグローバリゼーションへの対処——国際法協会「国際法教育」委員会における経験を手がかりとして——」

報告者：森田章夫（法政大学教授）

- * 「大学国際法教育シラバスと教科書の比較検討——日中韓を例に——」

報告者：薬師寺公夫（立命館アジア太平洋大学教授）

- * 「国際関係法学分野における教育・研究の国際協力」

報告者：吾郷真一（日本学術会議第一部会員・九州大学教授）

第2セッション：グローバル化時代における国内法教育の課題

- * 「留学生に対する英語による日本法教育——刑事法を中心に——」

報告者：高山佳奈子（日本学術会議連携会員・京都大学教授）

- * 「グローバル私法の勧め」

報告者：櫻田嘉章（日本学術会議第一部会員・甲南大学教授）

- * 「国際関係法の立場から国内法教育に求めるもの——国際公秩序との
リンケージを中心として——」

報告者：小森光夫（日本学術会議連携会員・千葉大学名誉教授）

第3セッション：国際関係法教育における社会連携

- * 「外交実務の立場から国際関係法教育に望むこと（仮題）」

報告者：三上正裕国際法課長（外務省）

- * 「弁護士実務におけるグローバル化への対処について」

報告者：片山達（アンダーソン・毛利・友常法律事務所パートナー弁護士）

閉会挨拶：柳原正治（日本学術会議連携会員、九州大学大学院教授、国際法学
会理事長(予定)）

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

1 2	
幹事会	1 1 5

提 案

「学士課程教育における経営学教育の在り方—経営学教育の質保証に向けて—」の開催について

- 1 提案者 経営学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 経営学委員会経営学教育の在り方検討分科会
2. 日 時 平成23年2月19日（土）13時～17時
3. 場 所 日本学術会議講堂
4. 委員会等の開催 開催予定

5. 開催趣旨

日本学術会議経営学委員会「経営学教育の在り方検討分科会」（第21期）は、平成23年度発足予定の「学士課程教育における経営学教育質保証」の審議に向けて、「学士課程教育における経営学教育の在り方」の検討を行ってきました。本分科会での次のような事項を中心に審議を行ってきました。

- (1) 経営学士、商学士、経営情報学士、経営工学士などの経営関連諸学士はそれぞれの専門分野においてどのような基本的知識・能力・技能を修得しておくべきか。
- (2) 経営関連諸学士はその固有の分野の考え方と融合した考え方をどのように体得しておくべきか。
- (3) 経営関連諸学士が修得すべき知識と思考様式及び技能などの実践的力量を教育するためにどのような教育課程及び教育方法があるか。

本年3月末には、本分科会として「学士課程教育の経営学教育の在り方」（提言）を取り纏める予定です。それに先立ち、本分科会「中間提言案」を公開し、経営学関連教育分野及び実業界の立場からの意見と検討を行う場として「公開シンポジウム」の開催をお願いする次第です。

6. 次 第

総合司会 鈴木久敏（経営学教育の在り方検討分科会委員、筑波大学副学長）

開会の辞 藤永 弘(日本学術会議連携会員、経営学教育の在り方検討分科会委員長、青森
公立大学教授)

(1) 基調講演

司会: 吉原正彦(日本学術会議連携会員、同分科会委員、青森公立大学教授)

① 「学士課程教育における質保証」

広田 照幸(大学教育の分野別質保証の在り方委員会委員、日本大学教授)

② 「学士課程教育における経営学教育の在り方」

沼上 幹(日本学術会議連携会員、同分科会委員、一橋大学大学院教授)

(2) パネル・ディスカッション「学士課程教育における経営学教育の在り方」

司会: 奥林康司(日本学術会議連携会員、同分科会委員、摂南大学副学長)

パネリスト

・広田照幸(大学教育の分野別質保証の在り方委員会、日本大学教授)

・会計学教育分野: 藤永 弘(日本学術会議連携会員、同分科会委員長)

・経営学教育分野: 斎藤毅憲(日本学術会議連携会員、関東学院大学教授)

・商学教育分野: 池尾恭一(同分科会委員、慶應義塾大学教授)

・経営工学教育分野: 圓川隆夫(日本学術会議連携会員、東京工業大学社会理工学研究科
教授)

・経営情報学教育分野: 能勢豊一(同分科会委員、大阪工業大学教授)

・実業界の立場: 森 正治(同仁医薬化株式会社代表取締役社長)

閉会の辞 平松一夫(日本学術会議第一部会員、同分科会委員、関西学院大学教授)

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

1 3	
幹事会	1 1 5

提 案

「心の先端研究への期待」の開催について

- 1 提案者 心理学・教育学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主催 日本学術会議 心理学・教育学委員会「心の先端研究拠点と心理学専門教育」分科会
2. 後援 京都大学グローバルCOE心が活きる教育のための国際的拠点
京都大学・心の先端研究ユニット
3. 日時 平成 23 年 2 月 19 日(土)13:00 から 18:00
4. 場所 京都大学稲盛財団記念館(京都市左京区川端近衛)大会議室
5. 委員会等の開催 同日開催予定

6. 開催趣旨

人間の生物基盤の理解がすすむ一方で、部分に還元されないまると全体としての人間という存在をどのように理解するかが問われている。人間の心の研究は、従来は心理学や認知科学の領域だった。心理物理学、発達心理学、進化心理学、比較認知科学、行動分析学、社会心理学、臨床心理学などの心理学諸分野がある。しかし心の全体的理解には、精神医学、脳科学、実験社会科学、認知ロボティクス、ゲノム科学など、文理の連携した学際的アプローチが重要だろう。心の全体的理解につながる多様な先端研究の将来を展望したい。

7. 次 第

13:00 開会の辞・趣旨説明 松沢哲郎 [日本学術会議第一部会員、分科会委員長]
A 脳・ゲノムの先端研究 (司会:西田真也[日本学術会議連携会員、分科会委員])

13:10-13:30 定藤規弘 国立生理学研究所

13:30-13:50 郷 康広 京都大学

B 若手心理学者による研究報告と先端研究への展望 (司会:西田真也)

13:50-14:10 浅井智久 千葉大学

14:10-14:30 足立幾磨 京都大学

14:30-14:50 小泉 愛 東京大学

休憩 14:50-15:10

C 心理学先端研究の現在と未来 (司会:吉川左紀子[日本学術会議連携会員、分科会副委員長])

15:10-15:30 杉田陽一 産業技術総合研究所

15:30-15:50 多賀巖太郎 東京大学

15:50-16:10 積山 薫[日本学術会議連携会員、分科会委員] 熊本大学

16:10-16:30 山本淳一[分科会特任連携会員] 慶応義塾大学

16:30-16:50 亀田達也[日本学術会議連携会員] 北海道大学

休憩 16:50-17:10

D 討論会 WISH への期待 (司会:松沢哲郎)

17:10-18:10
閉会の辞 吉川左紀子

8. 関係部の承認の有無 第一部承認

1 4	
幹事会	1 1 5

提 案

生体医工学フォーラム 2011 「異分野連携によるライフイノベーションのための医療技術開発の課題」の 開催について

1. 提案者 基礎医学委員会委員長
2. 議 案 標記フォーラムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本学術会議基礎医学委員会生体医工学分科会、日本生体医工学会
2. 後 援：医療技術産業戦略コンソーシアム（METIS）
3. 日 時：平成 22 年 3 月 2 日（水）10：00～17：30
4. 場 所：東京大学山上会館（東京都文京区本郷 7-3-1）
5. 分科会：分科会開催予定
6. 開催趣旨：

日本はさまざまな先端的複合機械製品での高い競争力を持つものづくり技術を有しているが、医療機器分野ではその競争力は限定的であり、特に治療機器分野ではその競争力が弱まってきている。日本が有する最先端技術を活用することにより、種々の先端的な医療機器が開発されることが期待されており、新医療機器・医療技術産業ビジョンが策定され、革新的医薬品・医療機器創出のための 5 カ年計画（文部科学省・厚生労働省・経済産業省 H19. 4. 26）において、“我が国の優れた研究開発力を基盤に、革新的医薬品・医療機器の国際的開発・提供体制に我が国が参加していくとともに、日本で開発される革新的医薬品・医療機器の世界市場におけるシェアが拡大されることを通じて、医薬品・医療機器産業を日本の成長牽引役へ導くことを目指す。世界最高水準の医薬品・医療機器を国民に迅速に提供することを目標とする。”ことが唱われています。またこれはメディカルイノベーションを実現するうえでも重要な課題となっています。

日本学術会議基礎医学委員会生体医工学分科会では、昨年開発サイドの考える安全性と患者の考える安心の壁を埋め、社会的コンセンサスや妥当性を検討するための科学である、“レギュラトリーサイエンスに関する話題”を取り上げました。本年は昨年に引き続き、このようなレギュラトリーに関する課題も視野に入れつつ、優れた医療

技術を開発するための学会の役割、研究拠点活動の在り方、関連する研究教育活動の推進、日本の医療技術開発力の向上にむけての方策について、産・官・学の有識者および研究者が一堂に会して議論することを目的に開催いたします。

7. 次 第 (予定) :

10:00~10:05 開会のあいさつ

梶谷文彦 (日本学術会議連携会員、川崎医科大学)

【医療技術実用化に果たす学会の新たな役割】

司会：谷下一夫 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学)

10:05~10:25 学会および経済産業省がガイドラインや実施基準を通じてはたす役割
山根隆志 (産業技術総合研究所)

10:25~10:45 医療機器審査の立場から (仮題)
岡崎譲 (医薬品医療機器総合機構)

10:45~11:05 レギュラトリーサイエンス学会の発足と活動について
桐野豊 (レギュラトリーサイエンス学会)

11:05~11:20 休憩

司会：安藤譲二 (日本学術会議連携会員、獨協医科大学)

11:20~11:55 演題未定
近藤達也 (医薬品医療機器総合機構)

11:55~13:20 昼休み

【国内における医療技術開発活動】

司会：土肥健純 (日本学術会議連携会員、東京大学)

13:20~13:55 東京大学における医療技術開発の取り組み
永井良三 (日本学術会議連携会員、東京大学)

13:55~14:30 国立がん研究センターにおける医療技術開発構想
嘉山孝正 (日本学術会議連携会員、国立がん研究センター)

14:30~14:40 休憩

【産官学連携による医療技術開発推進の動き】

司会：橋爪誠 (日本学術会議連携会員、九州大学)

14:40~15:00 医療産業技術戦略コンソーシアムの取り組み：レギュラトリーサイエンスに関する調査研究
佐久間一郎 (日本学術会議特任連携会員、東京大学)

15:00～15:20 医療産業技術戦略コンソーシアムの取り組み：未承認医療機器をもちいた臨床研究の実施にかかる手引きの作成
川上浩二（京都大学）

15:20～15:40 医療産業技術戦略コンソーシアムの取り組み：医療技術評価に関する調査研究
楠岡英雄（日本学術会議連携会員、大阪医療センター）

15:40～16:00 日本医工モノづくりコモンズの活動について
北島 政樹（日本学術会議第二部会員、国際医療福祉大学、日本医工モノづくりコモンズ）

16:00～16:10 休憩

司会：佐久間一郎（日本学術会議特任連携会員、東京大学）

16:10～16:25 政府の取り組み 人選中（内閣府）

16:25～16:40 政府の取り組み 人選中（文部科学省）

16:40～16:55 政府の取り組み 人選中（厚生労働省）

16:55～17:10 政府の取り組み
竹上嗣郎（経済産業省商務情報局医療福祉・機器産業室）

17:10～17:25 全体討論・意見交換 人選中

17:25～17:30 閉会のあいさつ
田村俊世（日本生体医工学会会長）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

1 5	
幹事会	1 1 5

提 案

市民公開講座「21 世紀の再生医療」の開催について

1. 提案者 臨床医学委員会委員長
2. 議 案 標記市民公開講座を下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本学術会議臨床医学委員会身体機能回復分科会、日本再生医療学会
2. 後 援：日本医歯薬アカデミー（予定）
3. 日 時：平成 23 年 3 月 2 日（水）14：00～15：00
4. 場 所：京王プラザホテル 第 4 会場（南館 5 階、エミネンスホール）
（東京都新宿区西新宿 2-2-1）
5. 分科会：分科会開催予定

6. 開催趣旨：

再生医療は、自己の組織を再生して組織欠損の修復などを行う、新しい治療法である。米国では ES 細胞を用いた治験がスタートし、我が国では iPS 細胞による研究が日々進んでいます。日本学術会議臨床医学委員会身体機能回復分科会では、各領域における身体機能回復について論議していますが、その治療法の 1 つとして再生医療を期待しています。この度の市民公開講座では、心不全に対する心筋パッチ療法と国民病とも言われる歯周病の治療において用いられる再生医療について論議したいと思います。こうした研究は、我が国では非常に進歩しており、ますます国民の期待が高まっています。

7. 次 第：

○開会の挨拶 高戸 毅（日本学術会議第二部会員、東京大学教授）

○趣旨と進行の説明

座長：朝比奈 泉（長崎大学教授）

鈴木 茂彦（日本学術会議連携会員、京都大学教授）

○講演

「侮ると怖い歯周病は再生治療で治る」

石川 烈（東京女子医科大学先端生命医科学研究所客員教授）

「弱った心臓は甦る!？」

澤 芳樹（大阪大学大学院医学系研究科外科学講座心臓血管外科学教授）

○質疑と討論

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

1 6	
幹事会	1 1 5

提 案

第4回情報学シンポジウム “VISION, MISSION, PASSION
- The Fourth Paradigm in every aspect is coming soon” の開催について

1. 提案者 情報学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催： 日本学術会議 情報学委員会
2. 共 催：なし
3. 後 援：早稲田大学
4. 日 時：平成23年3月5日（土）13:00～17:10
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催（予定）：

情報学展望分科会、ユビキタス空間情報社会基盤分科会、情報ネットワーク社会基盤分科会、国際サイエンスデータ分科会、情報関係教育問題分科会、Eーサイエンス分科会、ウェブ・メディア社会基盤分科会、セキュリティ・ディペンダビリティ分科会、大量実データの利活用基盤分科会
7. 開催趣旨：

日本学術会議情報学分野委員会の活動を紹介するとともに、情報学分野の重要な課題について、斯界の第一人者の話を伺う。
8. 次 第：

13:00-13:10 開会挨拶

・村岡洋一（日本学術会議第三部会員 情報学委員会委員長）

「シンポジウムの趣旨と講演者の紹介」

13:10-14:30

(1) 迫力ある教育と分野の構築

- Prof. Mounir HAMDI (香港科技大学)

“On Building a World Class University: Challenges and Opportunities”

- Prof. John Hopcroft (Cornell University)

“Computer Science Theory to Support Research in the Information Age”

14:30-14:50 休憩

14:50-16:10

(2) 迫力ある研究テーマ

- Dr. Dennis Gannon (Microsoft Research)

“Democratizing Access to the Data Explosion with Cloud Computing”

- 青山友紀 (日本学術会議第三部会員 慶応大学)

「ICT パラダイムシフトに向けたイノベーション実証基盤のあり方」

16:10-16:50

(3) 迫力ある学生

- 寛捷彦 (早稲田大学)

「光いずる珠—IT 人材を見いだす「未踏ユース」」

16:50-17:10

日本学術会議の活動

- 西尾章治郎 (日本学術会議第三部会員 情報学委員会幹事)

「情報学分野のマスタープランについて」

- 武市正人 (日本学術会議第三部会員 情報学委員会副委員長)

「日本学術会議の現状について」

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 申し込み方法・連絡先

別途、Web 経由で広報の予定。 本件連絡先は、村岡（委員長：muraoka@waseda.jp）。

17	
幹事会	115

提 案

公開シンポジウム「今、アイヌであることと共に生きるための政策をめざして」の開催について

1. 提案者 地域研究委員会委員長、基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議地域研究委員会人類学分科会
基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同自然人類学分科会
2. 共 催 京都大学人文科学研究所「人種表象の日本型グローバル研究」プロジェクト
北海道大学アイヌ先住民研究センター
法政大学国際日本学研究所
3. 後 援 日本文化人類学会、日本人類学会
4. 日 時 平成23年3月6日（日）13：00～17：00
5. 場 所 法政大学市ヶ谷キャンパス58年館844号室
6. 分科会 分科会開催予定
7. 開催趣旨
国会で採択された「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」（2008）以来、アイヌ政策への取組が進められているが、この背景には「先住民族の権利に関する国際連合宣言」（2007）がある。現在、アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会による報告（2009）を受けて、アイヌが先住民族であるという認識に基づく政策展開や、民族共生の象徴となる空間の整備が計画されている。これらの政策が実現するためには、多様な文化と民族の共生が尊重されなければならない。共に生きるための政策とは何か、どのようにすれば実現するのか、このシンポジウムはこれらの問題を共に考える。
8. 次 第
司会：竹沢泰子（日本学術会議連携会員、人類学分科会委員、自然人類学分科会委員、京都大学教授）
佐野賢治（日本学術会議連携会員、人類学分科会委員、神奈川大学教授）

開会挨拶：山本眞鳥（日本学術会議第一部会員・人類学分科会委員長、自然人類学分科会委員、法政大学教授）

<講演者と講演タイトル>

- ・本多俊和（日本学術会議連携会員、人類学分科会委員、放送大学教授）
「世界の先住民族、日本の先住民族」
- ・佐々木利和（北海道大学アイヌ先住民研究センター教授）
「一つの列島、二つの国、三つの文化」
- ・常本照樹（北海道大学アイヌ先住民研究センター長）
「アイヌ政策と多文化共生」
- ・篠田謙一（国立科学博物館人類史研究グループ長）
「アイヌ民族の自然人類学研究とその課題」

コメンテータ：加藤忠（北海道アイヌ協会理事長）他

窪田幸子（日本学術会議連携会員、人類学分科会委員、神戸大学教授）

閉会挨拶：斎藤成也（日本学術会議第二部会員、人類学分科会委員、自然人類学分科会委員長、国立遺伝学研究所教授）

9. 関係部の承認の有無 第一部承認、第二部承認

1 8	
幹事会	1 1 5

提 案

公開シンポジウム「子どもを元気にする運動・スポーツの適正実施のための基本指針」の開催について

1. 提案者 健康・生活科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会
2. 後 援：なし
3. 日 時：平成 23 年 3 月 9 日（水）13：00～17：00
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会：分科会開催予定

6. 開催趣旨：

日本の子どもの体力低下が注目され始めてからすでにかかなりの年月が経過し、各界においてさまざまな子どもの体力向上のための取組が行われている。子どものうちから活力を増進しておくことは、将来の社会の活力を増進することにつながる重要な方策である。本シンポジウムでは、こどもの体力・健康を高める活動に対する学術的支援を目的として、体力・健康に関わる学術研究の成果に基づいて、子どもの活力を効果的に高めるための運動実施に際して準拠すべき基本的な指針について検討する。

7. 次 第：

総合司会 大築立志（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授）

開会挨拶 福永哲夫（日本学術会議第二部会員、同健康・スポーツ科学分科会委員長、鹿屋体育大学学長）

○第 1 部 運動・スポーツの子どもへの効果

司会 高松薫（日本学術会議連携会員、流通経済大学教授）

演題及び演者

- ・ 体への効果-体力・スキル・健康

岡田知雄（日本学術会議連携会員、日本大学教授）

- ・ 心への効果-気力・意欲・心理的安定・性格

杉原隆（日本学術会議連携会員、十文字学園女子大学特任教授）

- ・ 知力への効果

大築立志（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授）

○第2部 子どもの活力を向上させる運動・スポーツ適正実施基準への学術的提言

司会 田口貞善（日本学術会議連携会員、奈良産業大学教授）

演題及び演者

- ・ 文部科学省体力・運動能力調査からみた子どもの活力向上への提言

内藤久士（順天堂大学教授）

- ・ 子どもの活力向上のための最低限度の運動指針

竹中晃二（早稲田大学教授）（調整中）

- ・ 運動遊びによる動きの習得からみた子どもの運動指針への提言

中村和彦（山梨大学教授）

- ・ 子どもの基礎的な動きの評価法

佐々木玲子（慶應義塾大学教授）

○第3部 子どもの運動・スポーツ適正実施のための基本指針

演題及び演者

- ・ 子どもの運動に関する諸外国のガイドライン

田畑泉（日本学術会議連携会員、立命館大学教授）

- ・ 日本の子どもの元気にする運動・スポーツ実施の基本指針

大築立志（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授）

○第4部 総合討論

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

19	
幹事会	115

提 案

「データ同化：計測と計算の限界を超えて」の開催について

1. 提案者 情報学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催： 情報学委員会大量実データの利活用基盤分科会
2. 共 催： 統計数理研究所
3. 後 援： なし
4. 日 時： 平成23年3月11日（金）14：00～17：30
5. 場 所： 統計数理研究所
6. 分科会の開催：無し
7. 開催趣旨：計測・観測データとシミュレーション計算の情報統合技術であるデータ同化に関するシンポジウムを開催することにより、本分科会の設立目的の一つである異種大量情報の利活用法の研究促進を企図する。
8. 次 第：

挨拶 北川現四郎
 講演1. 樋口 知之
 講演2. 早瀬 敏幸
 講演3. 淡路 敏之
 司会 樋口 知之

（統計数理研究所 所長/日本学術会議連携会員）
 （統計数理研究所 教授/日本学術会議連携会員）
 （東北大学 流体科学研究所 所長/教授）
 （京都大学 理事・副学長/教授）
9. 関係部の承認の有無：第三部承認

20	
幹事会	115

提 案

「資源環境型ものづくりを実現するための学術的指針」の開催について

1. 提案者 機械工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議機械工学委員会生産科学分科会、
社団法人精密工学会
2. 日 時：平成23年3月14日（月）13：00～17：00
3. 場 所：東洋大学白山校舎（東京都文京区白山5丁目28-20）
2011年度精密工学会春季大会会場
4. 分科会の開催：なし
5. 開催趣旨：
国ではグリーンイノベーションを推進することを第4期科学技術基本計画の柱として決定した。これらの政策立案を支援できるように、学術会議生産科学分科会として、ものづくり分野からの貢献の可能性・役割を学術的に検討し、「資源環境型ものづくりを実現するための学術的指針」としてその概要を取り纏めたので広く一般に広報するためにシンポジウムを開催する。
6. 次 第：
（司会）岸浪建史（日本学術会議第三部会員、釧路工業高等専門学校校長）
13:00-13:20 日本学術会議生産科学分科会の活動と21期の成果報告
古川勇二（日本学術会議第三部会員、職業能力開発総合大学校長）

13:20-13:40 ものづくりを取り巻く環境変化
間瀬俊明（デジタルプロセス株式会社取締役相談役）
13:40-14:00 資源環境型ものづくり経営科学の指針

圓川隆夫（日本学術会議連携会員、東京工業大学教授）

14:00-14:20 資源環境型ものづくりを実現するための生産システム科学
の指針

木村文彦（日本学術会議第三部会員、法政大学教授）

14:20-14:40 生産プロセスにおける資源環境型の考え方と学術の貢献

井上孝太郎（日本学術会議連携会員、J S T）

14:40-15:00 設計情報環境のためのものづくり科学の課題と提言

鈴木宏正（日本学術会議連携会員、東京大学教授）

15:00-15:20 精密工学会の方針と役割

森脇俊道（日本学術会議連携会員、摂南大学教授）

15:30-17:00 パネルディスカッション

コーディネータ：古川勇二（日本学術会議第三部会員、職業能力開発総
合大学校長）

パネリスト：上記6名および機械工学委員会生産科学分科会委員，
その他機関からのパネリストを予定

7. 関係部の承認の有無：第三部承認

8. 申し込み方法・連絡先

事前申し込み不要．現地にて直接受け付け

連絡先：東京大学生産技術研究所 帯川利之

E-mail: Obikawa@iis.u-tokyo.ac.jp

電話：03-5452-6771

2 1	
幹事会	1 1 5

提 案

公開シンポジウム「一人ぐらし高齢者が自分らしく生きることを支えるために」の開催について

1. 提案者 健康・生活科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会高齢者の健康分科会、
財団法人長寿科学振興財団
2. 後 援：神戸市看護大学
3. 日 時：平成 23 年 3 月 21 日（月）13:30～16:00
4. 場 所：神戸市看護大学ホール（兵庫県神戸市西区学園西町 3-4）
5. 分科会：分科会開催予定
6. 開催趣旨：

我が国は、高齢社会を迎える中で、一人ぐらし高齢者が増加している。高齢になっても、条件が許せばできるだけ長く住みなれた地域や家庭で生活できることを望んでいる。

そこで、一人ぐらし高齢者が安心して快適に自分らしく生きるための方策について、専門家による提言と会場との論議を進める。
7. 次 第：
 - 主催者側挨拶 金川克子（日本学術会議連携会員、同健康・生活科学委員会高齢者の健康分科会委員長、神戸市看護大学学長）
 - 趣旨と進行の説明

司会：太田喜久子（日本学術会議連携会員、慶応義塾大学教授）
安村誠司（日本学術会議連携会員、福島県立医科大学教授）

○シンポジスト

①「一人ぐらし高齢者」への人口学的接近

阿藤誠（日本学術会議連携会員、早稲田大学特任教授）

②高齢者の一人ぐらしと家族

直井道子（日本学術会議連携会員、桜美林大学大学院教授）

③一人ぐらし男性高齢者の自立支援における健康問題－セルフケアと交流－

田高悦子（横浜市立大学教授）

④一人ぐらし高齢者の生活実態と社会的孤立－問題解決の方向性－

河合克義（明治学院大学教授）

⑤高齢者が一人ぐらしを楽しむための I C T

関根千佳（株式会社ユーティッド 代表取締役社長）

○質疑と討論

○閉会の挨拶 白澤政和（日本学術会議第一部会員、大阪市立大学大学院教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

2 2	
幹事会	1 1 5

提 案

公開シンポジウム「口蹄疫および鳥インフルエンザ発生の状況把握とその行方」の開催について

1. 提案者 農学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会、農学委員会地域総合農学分科会、日本沙漠学会
2. 日 時：平成 23 年 3 月 22 日（火）13:00～17:00
3. 場 所：筑波大学総合研究棟 A110 号室
（茨城県つくば市天王台 1－1－1）
4. 分科会：分科会開催予定
5. 開催趣旨：

現在、韓国で進行中の口蹄疫は牛豚中心に 230 万頭が殺処分されている。これは昨年春夏季の宮崎県での殺処分 29 万頭を遙かに超えており、いつ日本に伝播するか懸念される状況にある。米国農務省の長年の調査では口蹄疫の伝播には風・渡り鳥の関与が 22%を占めており無視できない数値である。2010 年 2 月 25 日付け日本学術会議「報告」“黄砂・越境大気汚染物質の地球規模循環の解明とその影響対策”に家畜口蹄疫・鳥インフルエンザ・麦サビ病等の記述があり、日本国内での口蹄疫との予見的関連性が推測された。一方、鳥インフルエンザは、島根県安来市や宮崎県宮崎市のニワトリでの発生、鳥取県米子市のコハクチョウでの発生、鹿児島県出水市のツルでの発生があり、現在大きな社会的問題になっており、鶏卵の値上がりも起こっている。これら口蹄疫・鳥インフルエンザの感染経路の把握、黄砂、風、鳥との関連性および今後の方向性を論議することによって、国民への情報提供とともに幾分かの安全・安心の推進ならびに今後の防疫と科学研究の発展に資する。

6. 次第（予定）

13:00～13:10 開会の挨拶：真木太一（日本学術会議第二部会員、農学委員会委員長、農業生産環境工学分科会委員長・日本沙漠学会会長、筑波大学北アフリカ研究センター）

座長：森尾貴広（筑波大学北アフリカ研究センター）

13:10～13:50

(1) 国内採取黄砂アレルギー物質の解析

山田パリーダ（筑波大学北アフリカ研究センター）

八田珠郎（（独）国際農林水産業研究センター）

杜 明遠（（独）農業環境技術研究所）

脇水健次（九州大学）

真木太一（日本学術会議第二部会員、農学委員会委員長、農業生産環境工学分科会委員長・日本沙漠学会会長、筑波大学北アフリカ研究センター）

磯田博子（日本学術会議連携会員、筑波大学北アフリカ研究センター）

13:50～14:30

(2) 黄砂構成鉱物とその生成環境

八田珠郎（（独）国際農林水産業研究センター）

根本清子（（独）国際農林水産業研究センター）

越後拓也（（独）国際農林水産業研究センター）

脇水健次（九州大学）

杜 明遠（（独）農業環境技術研究所）

山田パリーダ（筑波大学北アフリカ研究センター）

磯田博子（日本学術会議連携会員、筑波大学北アフリカ研究センター）

真木太一（日本学術会議第二部会員、農学委員会委員長、農業生産環境工学分科会委員長・日本沙漠学会会長、筑波大学北アフリカ研究センター）

休憩（14:30～14:50）

座長：早川誠而（日本学術会議連携会員、山口大学名誉教授）

14:50～15:30

(3) 黄砂と口蹄疫・麦サビ病等の病原菌の輸送について

真木太一（日本学術会議第二部会員、農学委員会委員長、農業生産環境工学分科会委員長・日本沙漠学会会長、筑波大学北アフリカ研究センター）

磯田博子（日本学術会議連携会員、筑波大学北アフリカ研究センター）

森尾貴広（筑波大学北アフリカ研究センター）

山田パリーダ（筑波大学北アフリカ研究センター）

八田珠郎（（独）国際農林水産業研究センター）

杜 明遠（（独）農業環境技術研究所）、脇水健次（九州大学）

座長：大政謙次（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科）

15:30～16:10

- (4) 国内における高病原性鳥インフルエンザの発生
西藤岳彦（(独)動物衛生研究所 人獣感染症研究チーム）

16:10～16:50

- (5) タイで分離された高病原性鳥インフルエンザの病原性解析
林 豪士（(独)動物衛生研究所 タイ - 日本人獣共通感染症共同研究センター）

16:50～17:00

閉会の挨拶：橋本 康（日本学術会議連携会員、農業生産環境工学分科会副委員長、
愛媛大学名誉教授）

7. 関係部の承認の有無：第二部承認

2 3	
幹事会	1 1 5

提 案

「福祉職・介護職の専門性の向上と社会的待遇の改善に向けて」の開催について

- 1 提案者 社会学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 社会学委員会福祉・介護職育成分科会、社会福祉系学会連合
2. 日 時 平成 23 年 3 月 27 日（日）午後 1 時～3 時 30 分
3. 場 所 東洋大学 白山キャンパス
4. 委員会等の開催 同日開催予定

5. 開催趣旨

日本学術会議社会学委員会の福祉職・介護職育成分科会では「福祉職・介護職の専門性の向上と社会的待遇の改善に向けて」（提言）をほぼまとめた段階にあるが、提案の意図を示し、これを具体的にいかに展開していくのかを、社会福祉の経営者や実践現場の立場から議論することにある。ひいては、福祉職・介護職の専門性の向上と社会的待遇の改善に寄与することを目的にしている。

6. 次 第

シンポジスト：古川孝順（日本学術会議連携会員、福祉職・介護職育成分科会委員、東洋大学ライフデザイン学部長）
住居広士（日本学術会議連携会員、福祉職・介護職育成分科会委員、県立広島大学教授）
 諏訪 徹（厚生労働省 社会・援護局）
 コメンテーター：市川一宏（日本学術会議連携会員、福祉職・介護職育成分科会委員、ルーテル学院大学長）
 上之園佳子（日本大学教授）
 コーディネーター：白澤政和（日本学術会議第一部会員、福祉職・介護職育成分科会委員長、大阪市立大学大学院教授）

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

2 4	
幹事会	1 1 5

提 案

公開シンポジウム「健康増進・地域医療・医療費適正化計画とデータ活用：生活習慣病の予防・治療システムの戦略的構築へ」の開催について

1. 提案者 臨床医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本学術会議臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同生活習慣病対策分科会、日本衛生学会
2. 後 援：なし（予定）
3. 日 時：平成 23 年 3 月 27 日（日）13:15～15:15
4. 場 所：昭和大学旗の台キャンパス（東京都品川区旗の台 1-5-8）
5. 分科会：分科会開催予定
6. 開催趣旨：

社会保障制度の財政状態が厳しく一層の高齢化も進む我が国においては、活力のある社会へ向けて、健康寿命を延伸し、医療の質・効率・アクセスの向上を推進する必要がある。中でも生活習慣病の対策は要である。

地域の保健医療システムについて、限られた資源を有効に配備・活用するべく、データに基づき適切な評価をし、系統的・計画的に諸々の施策を計画し、その計画を効果的に実施していくことが、ますます重要となってきている。言い換えれば、地域の健康増進計画、医療計画、医療費適正化計画などの推進にデータ分析を活用する手段が問われている。

近年、様々なデータが研究者にも分析されるようになってきた。しかし、まだ、データ分析や研究が保健医療の効果的な計画やシステム構築に役立つ余地は大きく残っており、その方法論も発展途上にある。

本シンポジウムにおいては、地域における保健医療の制度政策づくりと関連するデータ分析研究について最新の知見や分析方法論を共有するとともに、今後の

発展に向けた議論を行うことを目的とする。

7. 次 第：

○挨拶（予定） 中館俊夫（昭和大学医学部衛生学教室教授）

○座長 徳留信寛（日本学術会議連携会員、国立健康・栄養研究所理事長）
今中雄一（日本学術会議特任連携会員、京都大学大学院医学研究科教授）

○講演（予定：タイトルは若干の変更があり得ます。）

「保健医療の政策・計画の現状とデータ分析研究への期待」

城 克文（厚生労働省 保険局総務課医療費適正化対策推進室 室長）

「生活習慣病の予防と医療費」

岡村智教（慶應義塾大学医学部 衛生学公衆衛生学 教授）

「生活習慣病に関わる保健指導と医療費」

水嶋春朔（横浜市立大学 社会予防医学教室 教授）

「喫煙と生涯医療費」

林田賢史（産業医科大学病院 医療情報部 准教授）

「生活習慣病に関わる地域レベルのデータ連結と解析」

藤森研司（北海道大学病院 地域医療指導医支援センター 准教授）

「生活習慣病の地域医療政策におけるデータの統合的分析」

大坪徹也（京都大学大学院医学研究科医療経済学分野 助教）

○質疑と討論

○閉会の挨拶

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

2 5	
幹事会	1 1 5

提 案

公開シンポジウム「口蹄疫禍から考える我が国の畜産」の開催について

1. 提案者 食料科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会、(社) 日本畜産学会、
(社) 日本獣医学会
2. 日 時：平成 23 年 3 月 28 日 (月) 13:00～16:00
3. 場 所：東京農業大学厚木キャンパス (農学部) 講義棟M2階トリニティーホール
(神奈川県厚木市船子 1737)
4. 分科会：分科会開催予定
5. 開催趣旨：
平成 22 年 4 月に宮崎県で一例目の発生が確認された口蹄疫はその後爆発的に感染が拡大し、防疫措置のための殺処分数は我が国の畜産史上最大規模の約 29 万頭に及び、地域社会や経済に甚大な被害をもたらした。本シンポジウムは、その被害を克服し、二度とこのような事態が起こらないようにするためには、我が国の畜産はどうあるべきかについて検討を行うものである。
6. 次第 (予定)
開会挨拶 甲斐 藏 (日本大学生物資源科学部、(社) 日本畜産学会理事長)

現地報告

【座長 入江 正和 (宮崎大学農学部、日本学術会議連携会員)】

- 1 2010 宮崎口蹄疫発生と防疫 姫田 尚 (農林水産省消費・安全局)
- 2 宮崎再生の動き 児玉 州男 (宮崎県農政水産部)

克服への道

【座長 入江 正和（宮崎大学農学部、日本学術会議連携会員）】

- 1 畜産経営の視点から～グローバリゼーションの中でリスクとどう向き合うのか～

細野 ひろみ（東京大学大学院農学生命科学研究科）

- 2 生産技術開発の視点から～飼料基盤の強化が重要～

（１）川島知之（畜産草地研究所、日本学術会議連携会員）

- 3 生産技術開発の視点から～健全性を高める飼養管理技術としてのアニマルウェルフェア～

（２）佐藤 衆介（東北大学大学院農学研究科）

- 4 家畜防疫の視点から～HACCP による農場管理～

田村 貴（岩手県宮古農林振興センター）

総合討論－これからの畜産業の発展のために－

【座長 佐藤 英明（東北大学大学院農学研究科、日本学術会議連携会員）】

閉会挨拶 矢野 秀雄（家畜改良センター、日本学術会議第二部会員）

7. 関係部の承認の有無：第二部承認

2 6	
幹事会	1 1 5

提 案

科学・技術の過去・現在・未来－ゆめロードマップ－

1. 提案者 第三部部長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催： 日本学術会議 第三部
2. 日 時：平成23年8月24日（水） 13：00～17：30
3. 場 所：日本学術会議講堂

4. 開催趣旨：

科学・技術の過去を振り返り、現在の状況を俯瞰することにより、科学技術立国を発展させることができた要因を探り、現在、科学・技術が直面している課題を浮き彫りにする。さらに、三部で取りまとめ中である「科学・技術のゆめロードマップ」が指し示す未来像を実現するための方策を議論する。その中では、三部を中心に取りまとめた大型計画をからめながら、ゆめロードマップを実現することの重要性、研究の進め方、成果の見通しなどについて議論する。このことにより、科学・技術の重要性について国民の理解を得るとともに、さらに国民に夢を与えることができるような科学・技術の展望を示す。

5. 分科会の開催：同日、第三部拡大役員会を開催予定

6. 次 第：

開会（13：00）

開会の辞

13：00～13：05

岩澤 康裕（日本学術会議第三部部長）

挨拶

13：05～13：15

未定

特別講演 「戦後の科学・技術の発展をささえたもの（仮題）」

13:15～14:00

小林 誠（日本学術振興会理事／日本学術会議連携会員）

「科学・技術アクションプラン（仮題）」 14:00～14:30

泉 紳一郎（予定）（内閣府政策統括官（科学技術政策・イノベーション担当）

「科学・技術のゆめロードマップ」 14:30～15:00

後藤 俊夫（日本学術会議第三部副部長）

質疑

15:00～15:15

休憩

15:15～15:30

パネルディスカッション

15:30～17:20

「わが国の科学・技術を真に強くする方策と展望」

オーガナイザー

岩澤 康裕（日本学術会議第三部部長／電気通信大学教授）

パネリスト（順不動）

永宮 正治（日本学術会議第三部幹事／J-PARC センター長）

北澤 宏一（予定）（日本学術会議第三部会員／科学技術振興機構 理事長）

柘植 綾夫（予定）（日本学術会議第三部会員／芝浦工業大学 学長）

平 朝彦（予定）（日本学術会議第三部会員／海洋研究開発機構 理事）

辻 篤子（朝日新聞 論説委員）

閉会の挨拶

17:20～17:30

池田駿介（予定）（日本学術会議第三部幹事／東京工業大学名誉教授）

閉会（17:30）

7. 関係部の承認の有無：第三部承認

2 7	
幹事会	1 1 5

提 案

第 55 回材料工学連合講演会の開催について

1. 提案者 材料工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議 材料工学委員会
2. 共 催：*土木学会，*日本化学会，*日本機械学会，*日本金属学会，
*日本建築学会，*日本材料学会，
安全工学会，化学工学会，紙パルプ技術協会，火薬学会，軽金属学会，高温
学会，高分子学会，触媒学会，石油学会，セメント協会，繊維学会，炭素材
料学会，電気化学会，電気学会，日本航空宇宙学会，日本材料強度学会，日
本真空協会，日本接着学会，日本セラミックス協会，日本船舶海洋工学会，
日本塑性加工学会，日本鑄造工学会，日本鉄鋼協会，日本熱処理技術協会，
日本バイオマテリアル学会，日本非破壊検査協会，日本複合材料学会，日本
分析化学会，日本木材学会，日本レオロジー学会，表面技術協会，粉体工学
会，粉体粉末冶金協会，無機マテリアル学会，溶接学会（*印 幹事学会）
3. 日 時：平成 23 年 10 月 19 日（水）～ 10 月 21 日（金）
5. 場 所：京都教育文化センター
（〒604-8397 京都市左京区聖護院川原町 4-13）
6. 開催趣旨：
化学、金属、機械、土木など、あらゆる材料の総合的な講演会として、材料
研究の学際的融合ならびに交流の場を提供する。
7. 分科会の開催：無し
8. 次 第：一般講演、オーガナイズドセッション（含基調講演）、特別講演
・ 特別講演の講演日に馬越佑吉(日本学術会議第三部会員 材料工学委員
会委員長)挨拶、
・ 豊田政男（日本学術会議連携会員・材料工学委員会委員）が講演

・講演会期間中に久保司郎（日本学術会議連携会員・機械工学委員会委員）が挨拶

参加対象者：一般

参加費：無料

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 申し込み方法・連絡先

社団法人日本材料学会

〒606-8301 京都市左京区吉田泉殿町 1-101

TEL075-761-5321 FAX075-761-5325 E-mail jimu@jsms.jp

28	
幹事会	115

提 案

国内会議の後援

- 1 提 案 者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部等に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審議 付託先
シンポジウム「アジアスタディ岡山‘11」 ①主催：岡山大学ナノバイオ標的医療イノベーションセンター（ICONT）、新医療創造 MOT 講座（イーピーエス株式会社 寄附講座） ②期間：平成 23 年 2 月 18 日 ③場所：岡山コンベンションセンター	岡山大学ナノバイオ標的医療イノベーションセンター長	第二部
第 6 回日本社会福祉学会フォーラム ①主催：一般社団法人日本社会福祉学会 ②期間：平成 23 年 2 月 27 日 ③場所：ホテルチューリッヒ東方 2001（広島）	一般社団法人日本社会福祉学会会長	第一部
地質調査総合センター第 17 回シンポジウム「地質地盤情報の法整備を目指して」 ①主催：産業技術総合研究所地質調査総合センター、地質地番情報協議会 ②期間：平成 23 年 2 月 28 日 ③場所：東京大学小柴ホール	独立行政法人産業技術総合研究所理事	第三部
日本伝熱学会創立 50 周年記念第 48 回日本伝熱シンポジウム ①主催：社団法人日本伝熱学会 ②期間：平成 23 年 6 月 1 日～3 日 ③場所：岡山コンベンションセンター	社団法人日本伝熱学会会長	第三部

平成23年1月27日

日本学術会議会長 殿

講演会、シンポジウム等主催提案書

公開シンポジウム「ネットワーク社会と知識労働：コモンウェルスの構築を目指して（仮）」
の開催について

- 1 提案者 社会学委員会委員長
- 2 議案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること

記

- 1 主催 日本学術会議社会学委員会メディア・文化研究分科会
- 2 共催 国際文化会館
- 3 後援 早稲田大学メディア・シティズンシップ研究所、東京大学大学院情報学環、
法政大学、学習院大学、東京藝術大学、日本社会情報学会（JASI）、日本社会
情報学会（JSIS）、情報通信学会、社会学系コンソーシアム、日本社会学会、
日本マス・コミュニケーション学会
- 4 日時 2011年4月16日（土）午後1時～5時
- 5 場所 日本学術会議講堂
- 6 分科会 同日開催予定
- 7 開催趣旨

情報テクノロジーの進歩に伴ったグローバリゼーションの過程で、私たちの社会は大きく変化しつつある。国家や資本主義、〈公〉と〈私〉の区分といった基本的な枠組みや概念を再検討する時期が来ているのである。とりわけ、伝統的な製造業に代わって、文化やメディア、金融や情報、サービスといった非物質的な生産を基盤とする新しい産業が中心になる一方で、グローバルな規模での分業が広がり、国内では流動化と二極化が進行するにつれ、〈労働〉というカテゴリーは大きく変容しつつある。

ネットワーク社会における〈労働〉を、どのように理解すればいいのか。新しく生まれつつある政治や経済、文化の枠組みをどのように考えるべきなのか。本シンポジウムは、こうした新しいグローバルな資本主義と政治権力を〈帝国〉という言葉で分析したアントニオ・ネグリの基調講演に迎え、「ネットワーク社会における〈労働〉の問題を議論する。

基調講演では、アントニオ・ネグリが、〈帝国〉をはじめ、彼が共著者のマイケル・ハートとともに近年提唱してきた、〈マルチチュード〉、〈共（コモン）〉という概念を中心に、新しいネットワーク社会がもたらした〈労働〉の特徴を分析するとともに、その問題点と可能性を議論する。特に、情報やメディア、文化や教育、サービスのような非物質的な生産を行っている〈労働〉に焦点をあてる。

シンポジウムの前半の報告では、まず市田良彦（神戸大学）がネグリの思想と実践を西洋思想史の枠組みに位置づけるとともに、その理論的射程について議論する。次に湯浅誠（自立生活サポートセンター・もやい事務局長）は、日本の格差社会や貧困問題を社会運動の現場から紹介することを通じて、労働条件の近年の変化がいかに二極化と貧困を招いているのかを議論する。三人目の報告者である上野千鶴子（東京大学）は、フェミニズムの観点から女性の労働の変化と現状を紹介しつつ、ネグリの議論を検討する。最後に、毛利嘉孝（東京芸術大学）は、文化実践の現場にいる若者たちの〈労働〉と、彼ら／彼女たちが文化的な実践をどのように政治的な活動と結びつけているのかを考察する。

シンポジウムの後半は、ネグリの基調講演と各報告を受けて、ネグリの思想と実践を日本でどのように受け取り、何を返すことができるのか、グローバルな〈労働〉の現場の連帯やグローバルな知識人のネットワークの場をどのように構成していくことができるのかを議論する。

8 次 第

- (1) コーディネーター 伊藤 守（早稲田大学教授・日本学術会議連携会員）
基調講演（60分） アントニオ・ネグリ
- (2) 報告：4名（各20分→80分程度）
 - ・ 市田 良彦（神戸大学教授）
 - ・ 湯浅 誠（自立生活サポートセンター・もやい事務局長）
 - ・ 上野千鶴子（東京大学教授・日本学術会議第一部会員）
 - ・ 毛利 嘉孝（東京芸術大学准教授・日本学術会議連携会員）
- (3) 応 答 アントニオ・ネグリ
- (4) 討 議 80分程度
- (5) 閉会挨拶 吉見 俊哉（東京大学教授・日本学術会議連携会員・メディア・文化研究分科会委員長）

9 関係部の承認の有無

第一部承認

平成22年12月

日本学術会議 平成23年度予算(案)

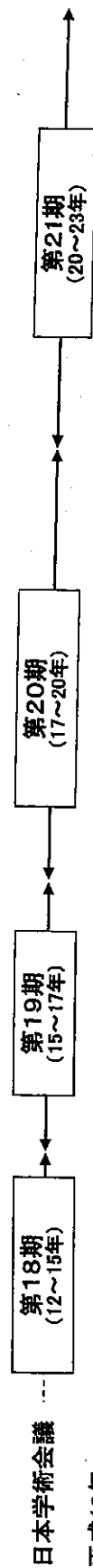
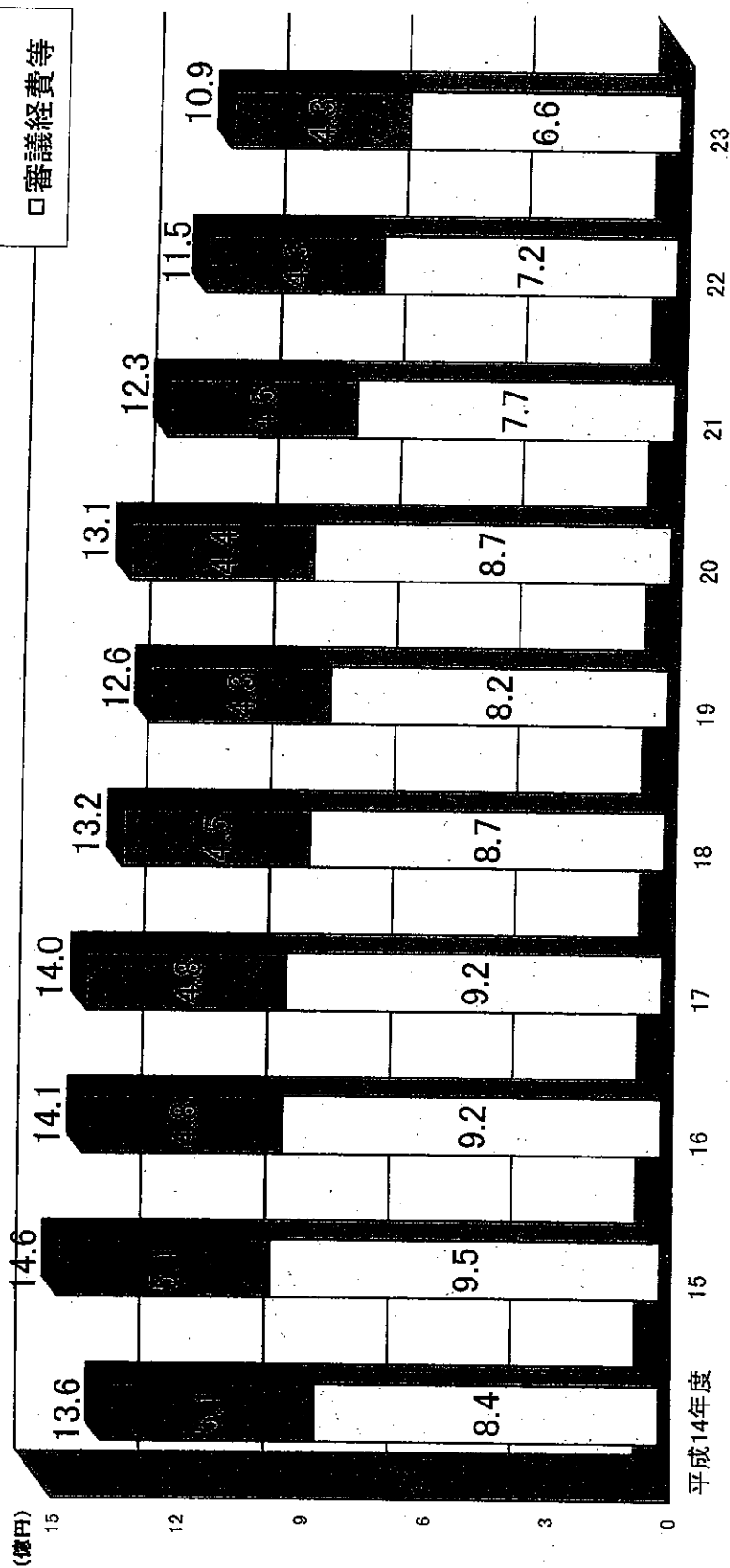
(単位: 百万円)

事 項	前 年 度 予 算 額 A	平成23年度 要 求 額 B	平成23年度 予 算 (案) C	対 前 年 度 比 較 増△減額 C - A	主 な 事 項
日本学術会議	1,147	1,127	1,093	△ 54	対前年度比 95.3%
科学に関する重要事項の 審議等に必要な経費	600	589	553	△ 48	23年度 予算(案) 23年度 要求額 22年度 予算額
1. 政府・社会等に対 する提言等	295	325	302	7	(1) 審議関係費 66 66 (76)
					(2) 分野別審議 161 161 (160)
					(3) 課題別審議 17 18 (11)
					(4) 会員選考関係費 (特殊 要因含む) 58 59 (8)
					(5) 若手科学者委員会 - 21 (0)
					(6) 大学教育の分野別質保証 の在り方等 0 0 (39)
2. 各国アカデミーと の交流等の国際的 な活動	286	242	234	△ 52	(1) 国際会議国内開催 60 60 (74)
					(2) 国際分担金 91 99 (102)
					(3) アジア学術会議 25 24 (26)
					(4) 国際シンポジウム 27 27 (32)
					(5) G8学術会議 3 3 (3)
					(6) 代表派遣 29 29 (48)
3. 科学の役割につい ての普及・啓発	3	9	3	1	(1) 学術情報資料収集連絡費 2 2 (2)
					(2) 科学・技術コミュニケー ションフォーラム(仮称) 2 7 (1)
4. 科学者間ネット ワークの構築	17	13	13	△ 4	(1) 地方活動の充実強化 12 12 (15)
					(2) その他の事項 1 1 (3)
日本学術会議の運営に必 要な経費	547	538	540	△ 7	(1) 人件費 444 441 (441)
					(2) 学術会議情報化推進経費 7 7 (9)
					(3) 一般事務費 89 90 (97)

(注) 計数は原則四捨五入によっているの、合計とは合致しないものがある。

日本学術会議予算の推移(平成14年度～平成23年度)

■ 人件費
□ 審議経費等



平成13年
○ 中央省庁再編
・ 総理府から総務省に移管
(参考) 総合科学技術会議設置

平成17年
○ 総務省から内閣府に移管
○ 日本学術会議法の一部改正法施行



会員手当・委員手当・委員等旅費の予算額の推移

単位:千円

	会員手当	委員手当	委員等旅費	備考
平成23年度	69,582	101,968	151,427	改選年
平成22年度	71,084	95,369	(※) 170,981	
平成21年度	80,792	100,357	139,563	
平成20年度	101,480	107,155	160,828	改選年
平成19年度	86,472	90,866	141,640	

※平成19年度～平成22年度は補正後予算額である
平成23年度は政府(案)である

(説明)

会 員 手 当：特別職の国家公務員たる会員に対する手当

一日当たり 会長29,500円、副会長27,000円、部長・副部長22,900円
その他の会員20,100円

委 員 手 当：一般職の国家公務員たる連携会員(特任連携会員を含む)に対する手当

一日当たり 委員長22,900円、その他の連携会員20,100円

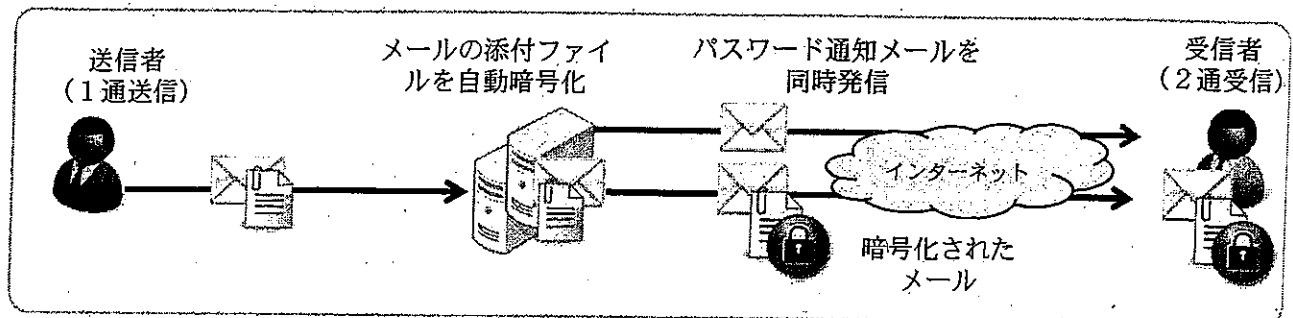
委員等旅費：会員・連携会員の会議出席等の旅費

(※)平成23年度予算より、予算執行の弾力化及び効率化を図るため、(目)外国旅費が
(目)委員等旅費に統合された。よって、平成22年度予算についても、計数整理上の
都合により、統合後の計数で計上している。

平成23年1月17日
内閣府情報システム室

メール添付ファイルの自動暗号化機能を導入します

内閣府LAN（共通システム）では2月1日に、メールの添付ファイルを強制的に暗号（パスワード付ZIP ファイル）化する仕組みを導入します。2月1日以降、内閣府LAN（共通システム）の行政端末からインターネット経由で配信するメールについては、添付ファイルが強制的に暗号（パスワード付ZIPファイル）化され、宛先に送られます。暗号化された添付ファイルを解凍するためのパスワードは、暗号化対象となったメールと同時に「パスワード通知メール」として宛先に自動送信されます。



注意 以下の場合、メールの添付ファイルは自動暗号化されません

- ・メールの添付ファイルが暗号化されるのは、インターネット経由で送信するメールのみです。霞が関 WAN 経由（主に各省庁向け）メールと、内閣府（@cao.go.jp、@ogb.cao.go.jp、@kanmin.go.jp）・内閣官房（@cas.go.jp）・官邸（@kantei.go.jp）の内部または相互でやりとりされるメールは自動暗号化されません。必要の場合は、ご自分で暗号化してください。
- ・メールにあらかじめ自分でパスワード ZIP ファイルを添付して送信した場合は、再度暗号化されず、パスワード通知メールも自動発信されません。送り先とパスワードの取り決めがある場合など、自動生成されるパスワードを利用したくない場合は、送信前に自分で添付ファイルをパスワード付 ZIP ファイルにしてから送ってください。



パスワード通知メールのイメージ

メール受信者には2通目のメールとして以下の通知メールが配信されます。
このメールの差出人（メールアドレス）はメールを送った方自身のものになります。
※メール件名は「<件名>のパスワード通知メール Password notification mail」です。

以下のメールに対するパスワードを通知します。

処理日時: {DATE}
送信者: {FROM}
パスワード: iqe8a8Adem

====送信元のメールヘッダ情報====

From: 太郎 <taroo@cao.go.jp>
To: 花子 <hanako@example.co.jp>
Cc: 次郎 <jirou@example.co.jp>
Subject: ○×△□資料について
Date: Fri, 03 Sep 2010 15:58:58 +0900
Message-Id: <20100903155858.C176.4B40433E@cao.go.jp>
=====

添付ファイルがパスワード付き zip ファイルになっているため、対応したアーカイブソフトで解凍して下さい。

This mail notifies the password of the following mail to you.

Sent date: {DATE}
Sender: {FROM}
Password: iqe8a8Adem

====Mail header information on code origin====

From: Taro <taroo@cao.go.jp>
To: Hanako <hanako@example.co.jp>
Cc: Jiro <jirou@example.co.jp>
Subject: About the material of ○×△□
Date: Fri, 03 Sep 2010 15:58:58 +0900
Message-Id: <20100903155858.C176.4B40433E@cao.go.jp>
=====

Please decode with the corresponding archive software because the attached file is zip file with the password.

参考 3

諮問第 11 号「科学技術に関する基本政策について」に対する答申（抜粋）
（平成 22 年 12 月 24 日 総合科学技術会議）

．基本認識

1．激動する世界と日本の危機

世界は今、我が国も含め、政治、社会、経済的に激動の只中にある。多くの国々は、こうした激動に迅速に対処すべく、あらゆる政策手段を総動員しており、その中にあって、科学技術（「科学及び技術」をいう。以下、同じ。）に関する政策に期待される役割もまた大きく変化しつつある。以下、近年の科学技術に関連する情勢の変化のうち、主なものを挙げる。

〔以下省略〕